

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成28年度事業)

平成29年8月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
II	山元町教育委員会の活動の概要	1
1	教育基本方針	1
2	教育重点施策	2
(1)	学校教育の充実	2
(2)	社会教育の活動推進	3
(3)	地域文化の保護と活用	3
(4)	社会体育と生涯スポーツの振興	4
III	主な事業の点検評価項目	4
1	教育委員会の活動	4
2	教育関係経費決算の状況	9
3	学校教育の充実	10
(1)	山元町立山下第二小学校の再建に向けて	10
(2)	山元町いじめ問題対策連絡協議会について	11
(3)	教育振興基本計画の策定について	12
(4)	学力向上に向けた教育講演会の開催について	12
(5)	小学校及び中学校における教育活動等の評価について	12
(6)	学校給食の概要について	50
4	生涯学習の推進	52
(1)	生涯学習の充実	52
(2)	生涯スポーツの推進	58
(3)	魅力ある地域文化の醸成	59
(4)	社会教育・社会体育施設の活用	61
(5)	社会教育施設等の整備計画	63
IV	点検評価に対する学識経験者の意見	65
V	参考法令	69

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価の対象

平成28年度の山元町教育委員会が所管する事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、平成28年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、実施にあたっては、山元町教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を毎年山元町議会へ提出し、かつ公表するものとします。

II 山元町教育委員会の活動の概要

1 教育基本方針

平成28年度における山元町の学校教育・社会教育の原点は、先の東日本大震災の被災状況にある。このことを踏まえて、「山元町震災復興計画」（第5次山元町総合計画）に沿った課題解決を最優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて、この計画の再生期の総仕上げと、併せて発展期を迎える取り組みを推進していくこととする。

学校教育については、津波で被災した山下第二小学校の併設解消に向けた移転新築復旧工事が7月末には完了予定であり、これをもって全ての災害復旧工事が終了し震災前の教育環境に戻ることになる。今後、新たな地域での特色ある学校づくりが課題となってくる。

一方、復興の進捗とともに復興住宅や新市街地等に転居される動きも加速

されているが、未だ仮設住宅や区域外等から通学する児童生徒もいる現状であることから、住環境や家族関係の変化に伴う児童生徒や保護者の心理的・経済的な負担等にも配慮しながら教育活動を展開していくものとする。

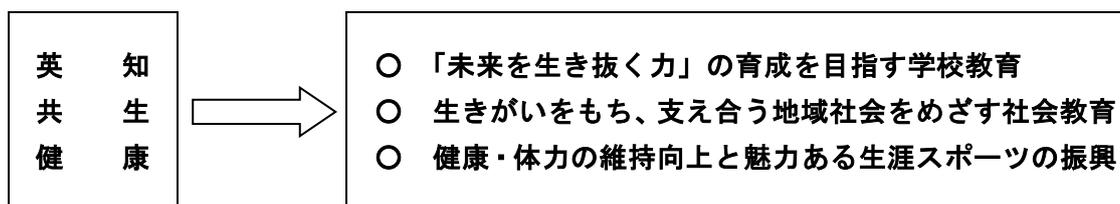
さらに、大震災の教訓を風化させることなく、これらの経験からなすべきことを見つめ、加えて新しいまちづくりや復興の姿も学習内容に取り込むなど、より一層学校と地域との協働を推進する。

また、社会教育については、引き続き多様な生涯学習、文化、スポーツ・交流活動に対し積極的に支援するとともに、山下・坂元両新市街地に整備する二つの（仮）地域交流センターの新築工事、更には、中浜小学校震災遺構の整備方針策定業務と社会体育施設整備の充実を図ることが喫緊の課題となる。

加えて、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を迅速に推進するため、体制の充実を図り、正確な記録保存に努める。

以上のような考えを主眼とし、基本方針等は下記のとおりとし、その具現化に努める。

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実に努める。



2 教育重点施策

○学校教育・社会教育の推進

～家庭・地域・学校の協働のもとで夢と志を育む～

学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町民一人一人が自己実現をめざし、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現するために、次の施策を重点として行う。

1. 学校教育の充実

(1) 未来を生き抜く力を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価

- ① 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長及び個性を伸ばす主体的・体験的学習の展開
- ② 震災経験を生かした志教育・心の教育・防災教育の推進
- ③ 健康な身体をつくるための基礎体力づくりと体力・運動能力の向上、食育の充実、薬物等の正しい理解の推進
- ④ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実と障害のある児童生徒の自立支援

- ⑤ 町の自然、歴史、伝統文化等の地域資源を生かした学びの推進と復興への理解を深めるためのふるさと教育の推進
- ⑥ よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成、情操教育の推進、道徳教科化の準備
- ⑦ 高度情報化に対応した情報活用能力と情報モラルの育成
- ⑧ 国際化に対応した外国語活動や国際理解教育の推進
- ⑨ 夢や希望を育むキャリア教育の推進と主体的な進路選択の指導

(2) 創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員

- ① 児童生徒の夢や志の実現をめざす特色ある学校、魅力ある学校経営の推進
- ② きめ細かな心のケアの充実と相談体制の確立
- ③ いじめの未然防止に努め、いじめや不登校のない学校・学級づくりの推進
- ④ 学校評価等を生かした、家庭・地域に開かれた学校づくり、家庭教育との連携推進
- ⑤ 教職員としての使命と責任の自覚、資質向上をめざした研修の充実
- ⑥ 学校評議員の積極的な活用と学校経営・運営への反映

(3) 学習環境の整備・支援体制の強化

- ① 児童生徒の基本的な生活習慣、学習習慣の定着をめざした家庭との連携強化
- ② 校舎、屋内運動場、プール等の施設・設備等の整備充実
- ③ 地域防災の視点に立った危機管理体制の整備と安心・安全な学校づくりの推進
- ④ 児童生徒の健全育成に係わる関係機関との連携

2. 社会教育の活動推進

家庭・学校・地域・関係機関等と連携を密にした活力ある社会教育を推進する。

- ① 青少年の健全育成の推進
- ② 社会教育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ③ 協働教育の充実と社会参加の奨励
- ④ 学習意欲の高揚と学習活動への支援
- ⑤ コミュニティ意識の醸成と地域づくりへの支援
- ⑥ 家庭教育・子育て支援の充実

3. 地域文化の保護と活用

かおり高い芸術文化とのふれあいと創造を図るため、文化財の保護と活用に努め、次世代への継承支援を図る。

- ① 芸術文化活動への理解と啓発促進及び優れた芸術・文化を鑑賞する機会の提供
- ② 参加し創造する芸術文化活動の支援
- ③ 郷土の伝統文化の保護と後継者育成の支援
- ④ 文化財の保存・継承と活用及び史跡の環境整備の促進
- ⑤ 復興事業等に伴う遺構や言い伝えの保存、埋蔵文化財の発掘保存

4. 社会体育と生涯スポーツの振興

町民の主体的スポーツ活動を支え、活力ある地域社会をめざし生涯スポーツの振興に努める。

- ① 社会体育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ② 町民総参加による生涯スポーツの振興
- ③ 社会体育関係団体の組織活動の活性化
- ④ スポーツ指導者の育成と体制の整備
- ⑤ 障がい者や高齢者に配慮した施設整備の推進

Ⅲ 主な事業の点検評価項目

1 教育委員会の活動

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成27年4月に一部改正された地教行法の規程に基づき、在任中の教育長の教育委員としての任期が満了する平成28年9月30日までは、経過措置として改正前の教育委員会制度のもとで、教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督のもとにその事務を執行しています。(旧制度)

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規程に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月下旬に定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催します。)、各種議案の審議がなされるほか、教育長報告として県教育長会議等での審議事項の報告や実績報告等を行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

なお、この訪問の際には、学校給食の試食や授業参観等の場を設けるなどして、指導・助言を行います。

(1) 教育委員会委員

①平成28年4月1日から9月30日まで (旧制度)

職名	氏名	任期
委員長	大内悦夫	平成24年4月1日～平成32年3月31日
職務代行者	島田さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日
教育長	森憲一	平成22年5月17日～平成28年9月30日

②平成28年10月1日から平成29年3月31日まで

(新制度)

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～平成31年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～平成32年3月31日
委員	島田さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回定例会	平成28年4月25日	①平成28年度山元町組織体制について ②平成28年度山元町臨時職員（教育委員会関係）の採用について ③山元町社会教育委員の会議について ④山元町文化財保護委員会委員の委嘱について ⑤山元町社会教育委員の委嘱について
第2回定例会	平成28年5月25日	①山元町特定事業主行動計画について ②山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ③山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ④山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ⑤山元町立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例について
第3回定例会	平成28年6月27日	①平成28年度第2回山元町議会定例会について
第4回定例会	平成28年7月25日	①社会教育委員の会議について ②文化財保護委員会について ③奨学金の償還事務の状況について ④平成29年度使用特別支援学級用教科用図書について ⑤平成28年度教育功績者表彰候補者について
第5回定例会	平成28年8月26日	①山元町立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例について ②平成27年度債務負担行為 山元町立山下第二小学校校舎等災害復旧工事請負契約の変更について ③山元町教育委員会に関する点検評価報告書について

第6回定例会	平成28年9月23日	①平成28年第3回議会定例会について ②山元町旧中浜小学校遺構保存・活用検討ワークショップについて
第7回定例会	平成28年10月25日	①山元町教育委員会教育長職務代理者の指名について ②県費負担職員の人事について ③全国学力状況調査結果について ④山元町旧中浜小学校震災遺構整備事業について ⑤地域交流センター整備に伴う事業スケジュール等について ⑥教育財産の所管替えについて
第8回定例会	平成28年11月24日	①障害児就学指導審議会の会議結果について ②旧中浜小学校遺構保存・活用検討状況について ③町民バスの再編と新公共交通(デマンド型乗合いタクシー)の運行方針(案)について ④第5次山元町地域公共交通会議設置に伴う委員の推薦について
第9回定例会	平成28年12月26日	①平成28年第4回議会定例会について ②平成28年度定期監査結果について ③教育振興基本計画策定の進捗について ④社会教育委員の会議について ⑤文化財保護委員会について
第10回定例会	平成29年1月25日	①産建教育常任委員会について ②山下・坂元地域交流センターの管理運営について ③県費負担職員の人事について
第11回定例会	平成29年2月14日	①教育振興基本計画の策定状況について ②社会教育委員の会議について ③防災拠点・地域交流センター条例等について ④県費負担職員の人事について ⑤平成29年度教育基本方針について ⑥平成29年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について
第12回定例会	平成29年3月17日	①県費負担職員の人事について ②一般職員の人事について
第13回定例会	平成29年3月27日	①平成29年第1回山元町議会定例会について ②平成28年度学校給食運営審議会の会議について ③平成28年度第3回山元町文化財保護委員会の会議について ④山元町児童生徒就学援助実施要綱の一部を改

		正する告示について ⑤山元町教育振興基本計画について ⑥文化財保護委員会への諮問について ⑦山元町教育相談員の委嘱について ⑧山元町社会教育指導員の委嘱について ⑨山元町スポーツ推進委員の委嘱について
--	--	---

(3) 臨時会の開催について

※平成28年度の開催はありませでした。

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等	出席者
平成28年5月25日	講義室	1 「教育等の振興に関する施策の大綱」について 2 今後の教育課題等について	町長、教育委員5名
平成28年11月24日	講義室	1 教育施設の環境整備について 2 今後の教育課題等について	町長、教育委員5名

一部改正された地教行法の規程に基づき策定した山元町総合教育会議運営要綱の規程に基づき、町長と教育委員で構成された総合教育会議が5月と11月に開催されました。

1回目の5月に開催された総合教育会議では、「教育等の振興に関する施策の大綱」に『いじめや不登校のない学校づくり』を追加し、今後の教育課題としては、学校施設・学校周辺の環境整備対策や児童生徒のマナー等規範意識の向上等について、今後とも取り組みを強化することを確認しました。

生涯学習関係施設の整備については、平成29年度に落成する坂元地区地域交流センター建設について、中浜小学校震災遺構保存活用に向けた整備方法や維持管理手法等の計画の策定、パークゴルフ場整備計画に向けた基本計画の策定について、意見交換を行いました。

また、教育振興基本計画の策定や、文化財関係では、埋蔵文化財発掘に伴う出土土器等の保存整理に向けた取り組みについて、議論し、今後の教育行政の取り組みを確認したところです。

2回目の11月に開催された総合教育会議では、教育施設の環境整備について、学校施設、社会教育施設、各施設の周辺環境の整備状況の議論を深め、町と教育委員会が一体となって、児童・生徒や施設利用者が、これまで以上に利用し易い環境整備に努めることを確認したところです。

今後の教育課題等について、学力状況調査結果を踏まえた学力向上対策、児童生徒数の推移を示し、複式学級の可能性や、中学校の生徒数の減少等に伴う学校の在り方について、議論を行いました。

町総合教育会議は、町長と教育委員が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行う場であり、今後も両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることを期待されていることを肝に銘じて取り組んでいくことが確認されました。

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
平成 28 年 6 月 27 日	山下第一小学校 新山下第二小学校建設現場	山下第一小学校（給食試食） ・ 学校経営方針等説明・授業参観 ・ 意見交換等 新山下第二小学校建設現場 ・ 現場説明・意見交換等
平成 28 年 8 月 26 日	旧中浜小学校 坂元地域交流センター 坂元公民館 茶室等	・ 現場説明・意見交換等
平成 28 年 9 月 23 日	坂元中学校 山下中学校	坂元中学校（給食試食）、山下中学校 ・ 学校経営方針等説明・授業参観 ・ 意見交換等
平成 28 年 11 月 24 日	山下第二小学校 坂元小学校	山下第二小学校（給食試食）、坂元小学校 ・ 学校経営方針等説明・授業参観 ・ 意見交換等
平成 28 年 12 月 26 日	深山山麓少年の森 中央公民館、勤労青少年ホーム 歴史民俗資料館・ふるさと伝承館	・ 現場説明・意見交換等

(6) 教育委員の研修会等への参加

期 日	研修会等名	会 場	参加者
平成 28 年 5 月 17 日	宮城県教育委員協議会定期総会・研修会	ふれあいエस्प塩竈	荻原、齋藤、森
平成 28 年 5 月 27 日	仙台管内教育委員会協議会定期総会・研修会	山元町中央公民館	荻原、齋藤、森
平成 28 年 7 月 15 日	東北 6 県教育委員会連合会研修会	ホテル大歓荘	島田、荻原、森
平成 28 年 11 月 17 日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会全体会議	県庁	菊池
平成 27 年 11 月 30 日	仙台管内教育委員会協議会教育委員研修会	大衡村平井会館	菊池、荻原、齋藤
平成 29 年 1 月 27 日	宮城県市町村教育委員会協議会教育委員・教育長研修会	ホテル白萩	菊池、大内、島田、齋藤

毎月の教育委員会定例会は、当初予定した通り実施し、その中で各活動等の報告を説明し、必要な議案についても慎重に議論して進めることができました。

また、教育委員による各小・中学校訪問も 3 回に分けて実施し、校長の学校経営方針、特色ある教育活動、生徒指導の現状、そして課題等について説明を受け、

その後授業参観等をし、さらに意見交換等を行うなどして、より望ましい方向性を確認することができました。

生涯学習施設・体育施設についても2回に分けて訪問し、現場での説明を受け、現況や運営の課題等について意見交換等を行うことができました。

2 教育関係経費決算の状況

平成28年度決算額は、教育費5億1,148万8千円、前年度比3.9パーセントの増加でした。

主な増加理由としては、国の経済対策により、坂元小学校校庭改良工事に要する国庫補助事業が前倒しで採択されたことにより増加したものです。

なお、東日本大震災からの復旧工事による文教施設災害復旧費である山下第二小学校建設工事に要した決算額は、11億1,072万2千円です。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成28年度		平成27年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	78,087	15.2	74,197	15.1	3,890	5.2
小学校費	109,985	21.5	89,668	18.2	20,317	22.7
中学校費	138,973	27.2	137,494	27.9	1,479	1.1
幼稚園費	11,354	2.2	11,514	2.3	△160	△1.4
社会教育費	162,955	31.9	168,281	34.2	△5,326	△3.2
保健体育費	10,134	2.0	11,291	2.3	△1,157	△10.2
教育費 計	511,488	100.0	492,445	100.0	19,043	3.9
文教施設災害復旧費	1,110,722		1,066,214		44,508	4.2
教育関係経費 合計	1,622,210		1,558,659		63,551	4.1

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成28年度		平成27年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	249,013	48.7	191,043	38.8	57,970	30.3
物件費	197,575	38.6	236,026	47.9	△38,451	△16.3
維持補修費	11,028	2.2	10,575	2.2	453	4.3
扶助費	26,395	5.1	29,055	5.9	△2,660	△9.2
補助費等	20,045	3.9	20,891	4.2	△846	△4.0
普通建設事業費	0	0	1,712	0.3	△1,712	△100.0
積立金	6,592	1.3	2,303	0.5	4,289	186.2
貸付金	840	0.2	840	0.2	0	0.0

教育費 計	511,488	100.0	492,445	100.0	19,043	3.9
文教施設災害復旧費	1,110,722		1,066,214		44,508	4.2
教育関係経費 合計	1,622,210		1,558,659		63,551	4.1

＊遠距離通学に伴う通学費補助

(単位：円)

学校名	【平成 23 年度】			【平成 24 年度】			【平成 25 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	3	3	39,525	1	1	49,105	2	2	114,606
中浜小学校	6	9	57,351	3	3	152,895	—	—	—
山下小学校	3	4	15,320	3	3	121,700	1	1	88,830
山下第一小学校	13	18	280,365	4	5	74,082	2	2	18,305
山下第二小学校	46	57	651,033	7	8	140,741	4	7	59,958
坂元中学校	14	15	342,719	5	5	209,122	3	3	52,211
山下中学校	41	42	910,796	13	15	483,716	6	6	239,203
合 計	126	148	2,297,109	36	40	1,231,361	18	21	573,113

学校名	【平成 26 年度】			【平成 27 年度】			【平成 28 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	2	2	6,210	4	6	53,776	※1	2	38,115
中浜小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山下小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山下第一小学校	1	1	11,760	0	0	0	0	0	0
山下第二小学校	4	9	35,693	4	4	47,992	0	0	0
坂元中学校	3	3	45,097	3	7	14,674	※5	6	29,994
山下中学校	6	6	297,879	2	4	70,226	3	3	74,790
合 計	16	21	396,639	13	21	186,668	9	11	142,899

※【平成 28 年度】：坂元小学校 2 年生と 6 年生、坂元中学校 3 年生の兄弟世帯は、坂元小学校に計上

震災の影響により、町内の小・中学校に遠距離通学を行う児童生徒の保護者に対し、通学に要する費用の一部を補助しました。

また、震災により被災した児童生徒の保護者に対し、「被災児童生徒就学援助制度」により、学用品費や学校給食費の一部を助成しました。

年ごとに対象者数は減少していますが、児童生徒の学校に対する愛着を受け止め、さらに保護者負担の軽減を図る一助とすることができました。

3 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建（移転復旧工事）に向けて

東日本大震災で被災し、山下小学校と併設を続けていた山下第二小学校は、教

育委員会が平成25年3月に策定した山元町小・中学校教育環境整備方針において、新山下駅周辺地区新市街地の一角に再建する考えを示しました。

これを受け、町として正式に山下第二小学校の再建を進めるため、平成25年第4回議会定例会において、用地取得・造成及び建築設計に要する予算を提案し、可決いただき、山下第二小学校の再建に着手しました。

平成26年度には、再建に係る基本並びに実施設計を完了し、平成27年6月16日に建設工事に着手し、(外構工事の着手は、平成27年12月15日)平成28年7月29日に校舎等の建設工事が完了し(外構工事の完了は、平成28年8月10日)、同年8月25日に落成式を挙行了しました。

施工を担当した阿部建設(株)と(株)佐藤総合計画とは、平成27年7月24日から毎週金曜日に定例会議を設定し打合せを行い、施工監理に努めるとともに、山下第二小学校とも連携を図りながら、定期的に打合せ会を設け、各種業務の打合せを行い、天候にも恵まれた結果、工程どおりに完成しました。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

これまで本町のいじめ問題等については、「山元町いじめ問題対策委員会」を要綱で設置(平成19年4月1日施行)し、いじめの対応や情報交換等について協議をしてきた経緯があります。

国(文部科学省)では、平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、その後、宮城県においても「宮城県いじめ防止基本方針」が策定され、平成26年4月に宮城県いじめ問題対策連絡協議会等が設置され、いじめ防止の対策を推進する基本的な事項が規定されてきたところです。

本町においても、教育委員会等で検討を重ね、平成27年10月に開催した総合教育会議での協議調整を経て、平成27年度第7回教育委員会定例会で議決後、庁内での手続きを経た上で山元町と山元町教育委員会が連名で「山元町いじめ防止基本方針」を策定したものです。

その後、山元町いじめ問題対策連絡協議会等条例を平成27年12月議会で可決されたことから平成28年3月22日に第1回目の会議を開催しております。平成28年度における山元町の内じめの認知件数等は、表のとおりです。

(平成29年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂 元 小 学 校		1					1		1
山 下 小 学 校				1			1		1
山下第一小学校							0		
山下第二小学校						2	2		2
坂 元 中 学 校							0		
山 下 中 学 校	1						1		1
計	1	1	0	1	0	2	5		5

各小中学校で、いじめとして認知した件数は5件、うち4件が小学校、1件が中学校であり、いじめの態様としては、冷やかしの、からかい、言葉での脅かしな

どでありました。認知した5件は、保護者とも連携の上、学校の対応で既に解消しています。引き続き、学校の組織一丸となって取り組みを継続しており、さらに保護者の理解協力も得ながら、教育委員会としても最優先の課題として良い方向へ指導していかねばならない取組です。

(3) 教育振興基本計画の策定について

教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第2項の規定に基づく本町における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成29年3月に「山元町教育振興基本計画」（平成29年度から平成33年度まで）を策定しました。

本計画の策定にあたり、山元町教育振興基本計画策定委員会を設置し、5回の委員会を開催し、内容の検討を行い、基本方向7項目と、重点的事項として10項目を掲げ、今後、計画を推進するため、定期的な点検と「PDCAサイクル」による進行管理を毎年行うこととしております。

(4) 学力向上に向けた教育講演会の開催について

児童生徒の学力向上に向け、6月2日、「学力日本一の村」として知られる秋田県東成瀬村より、教育委員会教育長の鶴飼 隆さんを招いて、「共に学び合う教育」と題し、教育講演会を開催し、子どもたちが主体となる環境づくりの重要性について講演いただき、教職員や保護者等約140人が参加しました。

(5) 小学校及び中学校における教育活動等の評価について

学校教育目標、今日的課題及び山元町教育基本方針から設定した次の各項目及びその評価の観点に対して、学校教育法及び同法施行規則により実施している学校評価から得られたデータ等を基に4段階評価を実施しました。

- ①学校教育目標・・・〈知〉〈徳〉〈体〉
- ②学力向上・・・基礎学力の定着、活用する力の伸長、主体的・体験的学習の展開
- ③心の教育・・・心のケアを含む心の教育、志教育の推進
- ④体力・生活習慣・・・体力向上に向けた取組、基本的生活習慣の育成
- ⑤防 災・・・地域防災の視点に立つ危機管理体制、大震災の経験を生かした防災教育
- ⑥いじめ不登校・・・いじめ防止対策、不登校対策
- ⑦地域連携・・・開かれた学校づくり、説明責任の状況
- ⑧資質向上・・・現職教育、校内研究など
- ⑨特色ある教育活動・・・各校独自の教育活動等

〈評価区分〉

A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である

山元町立坂元小学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(箇条書き)
1 学校教育目標	〈知〉 ○進んで学習する子ども	A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「坂小学力向上プラン」の実践 ・「家庭学習の手引き」をもとにした学習習慣の定着 ・本読みカードの活用の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力テストの結果が、5学年中2学年で全国平均を上回った(前年度0)。 ▲「進んで家庭学習に取り組んでいる」と感じている保護者が75%にとどまる。 ○音読や暗唱の指導を徹底し、全校での発表会を行った。
	〈徳〉 ○明るく思いやりのある子ども	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動による異学年交流の推進 ・あいさつ運動や「あたりまえ作戦」の実践 ・芸術・音楽鑑賞を通した心の教育 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的なたてわり遊びを通して、異学年交流を日常化することができた。 ○97%の保護者が「子供に思いやりの心が育っている」と感じている。
	〈体〉 ○根気強くがんばる子ども	A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・業間運動の実施 ・カードを利用した日常運動への意欲付け ・集団行動の指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○94%の保護者が「学校は体力向上に努めている」と感じている。 ▲下学年の自主マラソンの実績に比して、上学年の実績が低調であった。
2 学力向上	1 基礎学力の定着	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の「漢字能力検定」の校内実施 ・毎朝15分間の業前学習の継続 ・放課後個別指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査A問題の正答率が国語で8ポイント、算数で9ポイント向上した。 □漢字能力検定受検者の延べ人数が51名であったが、今後更に増えるよう声掛けをする。 ○担任以外の教員が学習に遅れの見られる児童への個別指導を行った。
	2 活用する力の伸長	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導の徹底 ・授業における話し合い活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査B問題の正答率が国語で12ポイント、算数で6ポイント向上した。 ○ノートの使い方を全校で統一し、自分の考えを書き込む習慣を付けさせた。
	3 主体的・体験的学習の展開	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高めるための外部講師の活用 ・学習効果を高めるための体験学習や校外学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科や保健指導などで専門的な知識をもつ外部講師を効果的に活用した。 ○年間40回以上の校外学習の実績があり、町のバスも有効に活用した。

3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながりタイム」の定期的な実施 ・「Q-Uアンケート」の実施と活用 ・スクールカウンセラーの活用 	<p>○94%の児童が、「学校生活が楽しい」と感じている。</p> <p>□「学校生活が楽しい」と感じていない児童との面談を行い、原因を明らかにする。</p>
	2 志教育の推進	A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を見つめ、郷土を愛する心を育てる指導 ・夢や志を育む体験活動の実施 ・志教育の3つの観点を位置付けた年間指導計画の整備と実践 	<p>○地区や保護者と連携し、地域に根ざした活動を展開できた。</p> <p>○みやぎMAXとの交流を継続し、障害があっても全国レベルで活躍する選手から多くのことを学んだ。</p>
4 体 力 ・ 生 活 習 慣	1 体力向上に向けた取組	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・各種大会への参加の呼び掛けと練習会の実施 ・業間運動日の設定と内容の工夫 ・体力運動能力テストデータの活用 	<p>○郡の陸上競技会に21名が参加した。4名が県大会に出場し2名が1位で全国大会に出場した。他も2位と3位に入った。</p> <p>○業間のマラソンや縄跳びが定着した。</p> <p>□体力運動能力テストのデータを活用し、苦手としている持久力、柔軟性の改善を図る。</p>
	2 基本的生活習慣の育成	A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「山元の子ども3つの約束」の活用 ・坂元小「家族の日」の取組の継続 ・学校だよりや各種懇談会を通しての家庭との連携 	<p>▲「山元の子ども3つの約束」を活用しきれていないという回答が4割以上にのぼった。</p> <p>○「家族の日」を継続実施し、毎月結果を公表した。</p> <p>□学校独自の掲示物を家庭に配布し「3つの約束」の啓発に努める。</p>
5 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・山元町防災計画案に基づいた、坂元小防災マニュアルの見直しと整備の推進 ・関係機関と協力・連携した訓練の実施 ・避難所としての受け入れ体制の課題改善と整備 	<p>○非常時に取りべき措置が統一され、内容が明確になった。</p> <p>□地域・行政との話し合いの中で積極的に提案していく。</p> <p>▲避難所開設の流れや、運営にあたっての学校と行政との引継が不明瞭である。</p>
	2 大震災の経験を生かした防災教育	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・防災読本「未来へのきずな」の活用 ・教科、教科外の指導と関連付けた取組 ・毎月1度程度の「ショート訓練」の実施 	<p>○各学年で10時間以上活用できた。</p> <p>○関連付けを明確にすることにより、効果的・効率的に防災教育を推進できた。</p> <p>○地震の揺れ等、少しの変化に対しても、児童一人一人が自ら安全確保に努められるようになっていく。</p>

6 いじめ 不登校	1 いじめ防止対策	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートや「つながりタイム」の定期的実施と活用 ・「いじめ防止対策委員会」の設置と開催 ・ケース会議や教育委員会報告などの迅速な対応 	<p>○いじめにつながりかねない事案や児童間のトラブルを早期に発見し、指導することができた。</p> <p>□外部の協力を得て「いじめ防止対策委員会」を1度開催できたが、更に複数回の開催を検討する。</p> <p>▲時間をかけて解決したが、いじめと認知したケースが1件生じた。</p>
	2 不登校対策	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・登校を渋る傾向の児童の把握と迅速な対応 ・不登校の児童に対するフォローと定期的な働き掛け ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携 	<p>○ケース会議等を等して適切な対策を講じ、不登校を未然に防ぐことができた。</p> <p>▲当初からの不登校児については、担当医の指示により登校刺激を与えず、親と連絡を取り合うにとどまった。</p> <p>□スクールソーシャルワーカーの効果的な活用を検討する。</p>
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページによる情報発信 ・学校だよりの地区回覧や児童作成のポスターによる学校行事への案内 ・授業参観やフリー参観、祖父母参観の実施 	<p>○ホームページや学校ブログにより、学校の様子をリアルタイムで発信することができた。</p> <p>○授業参観や学級懇談会、学年行事にはほとんどの家庭が参加している。</p> <p>□保護者以外の地区民の学校行事参加者が更に増えるように努める。</p>
	2 説明責任の状況	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校ガイドブック」による学校経営方針や学校評価アンケート結果の公表 ・年3回の学校評議委員会の開催 	<p>○学校評価アンケートは97%の回収率であった。肯定的な回答が前年度を上回り、意見や要望をまとめ、公表した。</p> <p>○学校評議委員よりの意見をまとめ、公表するとともに、随時学校運営に生かすことができた。</p>
8 資質 向上	1 現職教育	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城教育大学と連携した「児童理解研修」の実施 ・専門的な分野の講師を招いての研修 	<p>○年3回実施した「児童理解研修」では、新しい視点に立った児童の見方を学ぶことができた。</p> <p>○「心のケア研修」「アンガーマネジメント研修」「救急救命講習」「SNS研修」等充実した研修を受講できた。</p> <p>▲研修の時間の確保が難しくなっている。</p>

	2 校内研修	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究テーマの設定と授業実践 ・外部講師を招いての授業研究 	<p>▲研究テーマを変えての初年度であったため、研究が軌道に乗るまで時間が掛かった。</p> <p>○「学力向上サポートプログラム事業」に追加応募し、専門の講師を招いて校内研究に関するアドバイスを得た。</p> <p>□平成29年度は指導主事B訪問の他にD訪問も要請し、校内研究の一層の充実を図る。</p>
9 特色ある教育活動	1 地域の人材を生かした教育活動	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や総合的な学習、各教科での外部講師の活用 ・「読み聞かせボランティア」の活用 ・地域の住民との交流 ・各種支援団体との交流と活用 	<p>○新たな外部講師として何人かに要請し、生活科の学習やスキー合宿などで活用できた。</p> <p>○児童は月2回の読み聞かせを楽しみにしている。</p> <p>▲地域全体を巻き込んだリサイクル活動を継続しているが、児童の関わりがやや薄かった。</p> <p>○たくさんの団体や個人から支援をいただいたことは、児童の心の成長につながった。</p>
	2 地域素材を生かした教育活動	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習での地域の伝統芸能の継承 ・総合的な学習での地域の特色ある産業の学習 ・総合的な学習や各教科での地域の特色ある自然や歴史の学習 	<p>○「こども神楽」や「子どもおけさ」の伝承を通して、地区民と交流できた。</p> <p>▲「いちごの学習」や「りんごの学習」は内容の固定化が見られ、指導の工夫が必要である。</p> <p>□「坂元川探検」や地域の歴史の学習などとともに、指導内容の工夫と改善を図る。</p>
	3 特別支援教育の充実	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・新設された特別支援学級の指導の充実と環境整備 ・居住地校交流の促進 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善 	<p>○特支学級年間指導計画に沿って実践し、改善を重ねることができた。児童も落ち着いて学校生活を送っていた。</p> <p>○山元支援学校と連携し、年3回の居住地校交流を実施できた。</p> <p>□普通学級に在籍する、特別な支援を要する児童を対象とした授業改善を行う。</p>

山元町立山下小学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(箇条書き)
1 学校教育目標	〈知〉 しっかり勉強する子ども	A (B) C D	1 指導形態や指導法を工夫した、分かる授業・ 学びのある授業の実践 2 スキル学習の実施と家庭学習の充実	○校内研究を通じて、学習のねらいを明確にした 話し合い活動が充実した。算数科では学習内容が よく分かると回答した児童の割合が平成27年度 の80%から90%に増加した。 ▲家庭学習に取り組んでいる児童は、約89%で あるものの、どのような学習に取り組ませるかな ど、学習内容の質について吟味する必要がある。 □教員の専門性を生かした専科授業(書写授業) や交換授業、教頭による個別指導を展開する。
	〈徳〉 やりとおす子ども まごころのある子ども	A (B) C D	1 児童によるあいさつ運動の実施 2 縦割り活動を通した心の教育の充実	○児童会による呼びかけやポスターづくり等を通 して、自ら積極的にあいさつする児童が増えた。 学校評議員や区長等で構成されたサポート委員 会で、地域の中であいさつする児童が増えたとい う評価をいただいた。 ○年間7回の定例の縦割り活動(1単位時間)の設 定と月2回業間時間を活用した縦割り活動を計画 的に設定したことで、縦割り活動を楽しみにして いる児童が90%以上にのぼった。 ▲より良い人間関係の構築のために今後も積極 的にあいさつ運動を推進する。特に、「自ら進ん で相手に伝わるように」を合い言葉に指導を継続 する。 □「チーム山下小」の合い言葉の下、地域の教育 力を積極的に生かすために、学習支援ボランティ アの組織をつくる。

<p>〈体〉 たくましい子ども</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 体力向上に向けた日常的な取組の強化 2 外遊びの奨励</p>	<p>○積極的な外遊びの奨励や体力向上カードの活用を通して、運動に親しむ児童が増加するとともに、握力では、全国平均より約2kg程度上回った。 ▲俊敏性を高めるために教科体育の指導法を工夫し、運動量を確保する必要がある。 □Web縄跳び大会について周知し、参加することで年間を通した体力向上を目指す。走り幅跳び用の砂場を設置し、児童の運動経験を豊にする。</p>
<p>2 学 力 向 上</p> <p>1 基礎学力の定着</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 家庭学習習慣化のための指導 2 全職員によるスキルタイムの実施 3 専科授業・交換授業などによる指導改善</p>	<p>○家庭学習の意義と効果について懇談会等で啓発をし、具体的な取組を示すことで、90%以上の児童に習慣化を図れた。交換授業により、複数の教員が関わって指導にあたり、情報交換をすることで指導の改善が図られた ▲週3回、朝の活動としてスキルタイムを設定したが、長期的な視野で見た内容となっていたかに課題が残る。 □スキル学習について、児童の実態に合わせた内容に取り ませるための工夫をさらに考えたい。</p>
<p>2 活用する力の伸長</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 辞書の常時活用と読書の奨励 2 新しい学びの活用を促す授業の展開</p>	<p>○3年生以上の児童は全員が辞書をもち、授業での活用を図ることができた。また司書教諭と司書補を中心に図書館教育を推進し、授業での図書の利用と図書館の利用が図られた。校内研究の取組を軸に、学んだことをこれからどう生かしていくかを意識させる授業展開がなされた。 ▲新しい学びの活用は主に算数で行われた。他教科への波及が必要。 □新しい学びの活用を促す授業展開のあり方を、すべての教科において実践し、指導の充実を図りたい。</p>

<p>3 主体的・体験的学習の展開</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 総合的な学習の時間における体験的・探求的学習の充実 2 ねらいを明確にした話し合い活動の展開</p>	<p>○充実した話し合い活動を行うことで実感を伴う学びにつなげることができた。地域素材を対象に、児童が主体となって課題の設定を行い、それを解決するための調べ学習、体験をし、さらに出てきた疑問を解決しようと探究する総合的な学習の時間が展開できた。 ▲校外学習の移動手段の確保が難しく、さらなる工夫が必要である。 □生涯学習課と連携し、地域人材の活用と支援体制の充実を図るよう努めた。</p>
<p>3 心の教育</p> <p>1 心のケアを含む 心の教育</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 各教科等の授業の中で、「認め合い・助け合い・支え合い」の場を多く取り入れた授業づくりをする。 2 道徳の時間の充実を図る。</p>	<p>○小集団やグループ活動での「学び合い」を通して、多様な考えに触れる機会を意図的に設定することができた。 ○学校生活に「困り感」を感じている児童に対して、年間5回程度のケース会議を開催し、組織的対応を図った。 ○スクールカウンセラー活用し、児童の心の安定を図った。 ▲奉仕的学習や社会福祉施設等との連携等、実感を伴った学習経験が不足した。 □学校行事、児童会活動、縦割り活動等で、適切な交流の場を設定し、他者のよさや自分自身のよさに積極的に気付かせ、自己肯定感を高める。</p>
<p>2 志教育の推進</p>	<p>A (B) C D</p>	<p>1 社会性や勤労観、職業観を育む指導計画の修正 2 みやぎの先人集「未来への架け橋」の積極的活用</p>	<p>○外部講師等を積極的に活用することで、児童の将来に対する「夢」を育み、志を実現しようとする心の成長につなげることができた。 ○学校行事に取り組む際は、志教育の視点を共通理解し取り組むことができた。 ▲「志シート」の作成や活用についてさらに積極的に推進していく必要がある。 □「未来への架け橋」の有効な活用の仕方について研修を進めていく。実践事例の蓄積を図る。</p>

4 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A (B) C D	1 教科体育, 外遊び等での運動量の確保 2 各種体力向上カードの活用による意欲の向上	○砂場やジャンピングボートなど, 施設設備の整備により外遊びに取り組み児童が増加した。 ○体力向上カードを活用したことにより, 運動に対する意欲の向上が見られた。 ▲より計画的継続的な年間を通した体力向上の取組を具体的に提案する必要があった。 □「いつでも・どこでも・誰でも」取り組むことができる本校独自の体力向上プログラムを作り実践するようにする。
	2 基本的な生活習慣の育成	A (B) C D	1 児童の発達段階ごとの基本的な生活習慣の指導の重点の設定 2 全校児童に対する定期的な指導の実施	○各学年の実態に応じた指導計画を作成することで, 指導内容がより明確となり, 共通理解の下に指導を進めることができた。 ○毎週の打合せや職員会議等で職員間での情報共有ができ, 指導の強化に結びつけることができた。 ▲指導項目の重点化について教職員間でより共通理解を図るべきであった。 □PTAと連携した具体的な指導の在り方を検討し, 家庭と学校が連携した基本的な生活習慣の徹底を図る。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A (B) C D	1 山二小との併設解消に伴う危機管理マニュアルの改善 2 災害の想定にバリエーションを持たせた訓練の実施	○山二小が移転した後の教室配置等の変更に伴い, 避難経路や対応の手順, 役割分担などを見直し, 周知を図ることができた。また火災避難訓練は火元や発生時間を変え, 3年を掛けてローテーション実施することとした。 ▲マニュアル変更に伴い, 訓練の実施をとおして, 改善の余地がないか検証が必要である。 □訓練後の振り返りを迅速に行い, それぞれの立場や役割で気付いたことをマニュアルの改善にすぐに反映するようにしたい。

	2 大震災の経験を生かした 防災教育	A (B) C D	1 実地見学をとおしての防災教育 2 防災教育副読本の活用	○6年生は旧中浜小学校や町の復興の様子を実地で学習し、実感を伴った学習を展開することができた。本校の防災主任が編集に関わった防災教育副読本を活用した指導計画に合わせ、各学年で実践することができた。 ▲復興の進捗状況に合わせた指導計画作成が困難である。 □町の関係機関、生涯学習課との連携を図り、防災教育に関連する情報を取得できるようにしていく。
6 いじめ 不登校	1 いじめ防止対策	(A) B C D	1 生徒指導情報交換会(週1回) 2 生徒指導事例報告会(月1回) 3 生徒指導全体会(年3回) 4 児童対象「学校生活アンケート」(毎月) 5 児童対象「いじめアンケート」(毎月) 6 地域からの情報収集「サポート委員会」(年3回) 7 QUアンケートの実施と活用 8 スクールカウンセラーによる相談体制	○児童へのアンケート調査や教員による報告の機会を定期的に行い、実態把握に努めた。職員間で情報を共有することにより、いじめの未然防止に向けて効果的な指導ができた。 ▲児童の交友関係や変化をより細かに把握する必要がある。 □児童への聞き取りやアンケートを丁寧に分析し、些細な変容も見逃さないようにした。 □「聞き取りシート」の活用を図った。
	2 不登校対策	A (B) C D	上記1～8において同じように実施した。 1 情報の共有を図るとともに、ケース会議を開催し、指導の具体について検討した。	○打合せや職員会議等、機会をとらえ情報を共有することで早期に対応することができた。 ▲問題が発生した際には全職員で対応する必要がある。 □職員会議、打合せ等での共通理解を図るとともにケース会議を開催して具体的な指導を検討する。
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	A (B) C D	1 授業参観やみやまフェスティバル、持久走記録会など学校行事等の地区への公開 2 学校だよりの地区への回覧、及びホームページやメールによる情報の提供	○学校、学年便りやメール配信等で行事等の参観や参加を呼びかけるなど積極的な情報提供に努めた。 ▲保護者や地域の方々が教育活動にさらに関心をもち、学校をより身近に感じてほしい。 □行事の他にも儀式や集会活動にも積極的な参観を呼び掛けた。

	2 説明責任の状況	A (B) C D	1 学校経営方針や学校評価の公表 2 サポート委員会での学校経営の状況の説明	○学校行事や活動等の情報を公開することにより、地域からの理解が深まり、さらなる支援を得ることができた。 ▲さらなる情報の発信と保護者や地域住民の方々との対話が必要である。 □定例でサポート委員会を開催し、教育活動や教育環境について話し合う機会を設けた。
8 資質 向上	1 現職教育	(A) B C D	1 お互いに磨き合う校内共同研究 2 実技研修の実施	○年間を通じ共同研究に取り組み、職員の資質の向上に努めた。また、模擬授業による事前検討会やワークショップ形式の事後検討会の持ち方についても改善を図り、職員の意欲と指導力の向上を図った。 ▲より効果的な事前検討の持ち方について検討が必要。 □事前検討会での話し合いの焦点化を図る。また、教職員の強みを生かしたOJTや社会の要請に応じた実技研修を計画する。
	2 外部研修	A (B) C D	1 公開研究会等への積極的な参加 2 研修内容を共有化するための伝講会の実施	○外部での研修をすることと、そこでの学びを共有する伝講会を実施し、職員全体に研修の効果を波及させることができた。 ▲希望する研修会と学校行事の日程調整が困難だった。 □職務上必要な研修に確実に参加し、研修会情報を広く得るようにし、希望する研修にもできるだけ参加できるようにしていく。
9 特色 ある 教育 活動	1 指導形態の工夫	A (B) C D	1 交流学級との共同学習 2 教員の特技を生かした交換授業	○担任同士で計画を立て、個々の得意分野を生かして書写や音楽、家庭科等を中心に交換授業を実施した。 ▲年度初めに年間を見通した計画を立てることが必要であった。 □年間の指導計画や単元を見通して、より計画的な実践となるように指導の記録を蓄積させ、次年度に繋げた。

2 縦割り活動	<input checked="" type="radio"/> A B C D	1 年間を通した縦割りグループによる異学年児童との活動 2 活動を通した高学年児童のリーダーシップの育成	○縦割りで長縄大会を実施したことで、縦割り活動に対する意欲の向上が図られた。この活動をきっかけに、異学年児童同士のかかわり合う姿が増えてきた。 ▲それぞれの縦割り活動の事前準備を十分に行いたい。 □縦割り担当が、6年生のリーダーを中心に打合せを行った。また、各チーム担当教諭も活動前にリーダーと活動内容について確認しながら実施するようにした。
3地域素材や人材の活用	<input checked="" type="radio"/> A B C D	1 学習支援ボランティアの活用 2 総合的な学習の時間での素材の開発	○少年の森やつばめの杜公園への校外学習、持久走大会の見守りなど、安全に校外で活動することができた。 ▲地域の活用すべき人材や素材をさらに発掘、開発していきたい。 □地域協働の役割を担う生涯学習課と定期的に情報交換を行い、さらに連携を深めていく。

山元町立山下第一小学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(箇条書き)
1 学校 教育 目標	〈知〉 ○自ら課題を発見し、多様な見方・考え方で追求する子ども ○自己の思いや考えを自分なりに表現できる子ども	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での思考力, 判断力, 表現力を育む言語活動の充実 ・課題解決的な学習過程の工夫 	○昨年度に続き, 国語科で単元を貫く言語活動を取り入れることで主体的に課題に取り組み, 自分の考えをまとめて発表する力が伸びてきた。 ▲考えを交流し合い更に思考を深めさせたい。 □校内研究の視点に加え, 交流の在り方を学び合う。
	〈徳〉 ○思いやりの心もち, 互いに助け合う子ども ○進んで働き, 自分や友達を大切にしている子ども	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動における道徳教育の充実 ・基本的な生活態度(聴く, 話す, 挨拶)の育成 ・縦割り活動での異学年との交流活動と役割分担 	○道徳の授業を中心に教育活動全般において心を育む指導を行ってきた。 ○縦割り活動で助け合う姿, 立場をわきまえた言動が見られた。 ▲表に現れにくい交友関係を把握する。 □QUやいじめアンケート, 子どもの情報から実態を捉え, 好ましい人間関係や学級づくりに取り組む。
	〈体〉 ○明るく健康で, 進んで心身を鍛える子ども ○めあてに向かって粘り強く取り組む子ども	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の充実(早寝, 早起き, 朝ごはん歯みがき, 食育, 肥満傾向児童への対応)と家庭との連携 ・各種運動カードの活用と指導法の工夫・改善 ・休み時間の外遊びの奨励 	○児童自身が振り返る機会を定期的に設け, 意識化を図ることができた。家庭の協力も得られた。 ○運動カードを活用することで, めあてを意識し, 継続して取り組む児童が多かった。 ▲意欲を持続させるための工夫が必要である。 □学級等での全体指導や個別指導など活動に対する声かけ(評価)をこまめに行う。

<p>2 学 力 向 上</p>	<p>1 基礎学力の定着</p>	<p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査等からの実態把握と指導への活用(4月実施) ・「学力向上プラン」の策定と活用 ・「算数山一スタイル」の共有と活用 ・「学力向上に向けた5つの提言」の実践化 ・個別指導に対応する指導体制の工夫 ・一部教科担任制の実施 ・朝の学習活動の充実(スキル・作文・読書) ・「みやぎ単元問題ライブラリー」の活用 ・月2回のボランティアによる読み聞かせ ・「家庭学習の手引き」の共有と家庭学習の充実 ・長期休業中の学習活動「さくらタイム」の実施 	<p>▲学習内容の理解・定着に課題が見られた。平成28年度実施の標準学力調査結果では、全国平均正答率との差がマイナス10点以上の領域は国語:10/19, 算数:10/18, プラス10点以上の領域は国語:1/19, 算数:2/18であった。</p> <p>□各児童の実態を明確にし、授業以外の時間も活用し、個に応じた補習学習を継続した。</p> <p>○授業のねらいを明確にし、話し合いや書く活動、振り返りを大切にする事で学習内容の理解を図った。</p> <p>○校長・教頭・教務主任・支援員が各学年の指導に入り、複数教員で個別のつまずきに対応することができた。</p> <p>○書写を専科が担当することで、児童は意識を高め、意欲的に取り組んだ。</p> <p>○朝読書や読み聞かせ等で読書への関心や意欲を高めた。国語の授業等で先行読書・並行読書として関連図書を読む機会が増えた。</p> <p>○家庭学習や自主勉強への意識を高め、9割程度の児童が主体的に取り組めるようになった。</p> <p>○「さくらタイム」を活用し、個別の学習支援を行うことができた。</p>
	<p>2 活用する力の伸長</p>	<p>A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の過去問題等活用 ・学習過程における適用問題や振り返りの充実 ・既習事項を想起させる環境づくり ・教科や総合的な学習の時間等での表現・発表機会の充実 	<p>▲問題文を正確に読み取ることができない児童がいる。</p> <p>□4・5年生は、過去問題の解説を繰り返し、考え方や解き方を学ばせた。</p> <p>□多様な読書の機会を増やし、読む力を高めた。</p> <p>○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、反復学習や家庭学習を活用することで、効果が見られた。</p> <p>○各教科等で学習したことを生かして調べたり、発表の準備をしたりすることができた。</p>

	3 主体的・体験的学習の展開	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や総合的学習の時間等での課題解決型学習や体験的学習の推進 ・1年生からの英語に親しむ活動実施 	<p>○教科で学んだことを総合的に生かす学習に取り組む、課題に対して意欲的に向き合う児童の姿が見られた。</p> <p>▲体験を伴う校外学習時間の確保が難しい。</p> <p>□校外学習の必要性を見直すとともに教科横断的な取り組みの可能性を検討した。</p> <p>○低学年からALTによる英語に親しむ活動に取り組むことで、外国の文化や表現に親しむことができた。</p>
3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	<p style="text-align: center;">(A) B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育重点目標を明確にし、発達段階に応じた心の教育の充実 ・縦割り班(遊び, 清掃, カレンダー作りなど)や地域の方との関わりの充実 ・カウンセラーやスクールソーシャルワーカー, 子ども総合センター等, 関係機関との連携 	<p>○挨拶や言葉遣いなど礼儀が身に付いた。</p> <p>○善悪の判断をし, 良いと思うことを実践する児童が増えてきた。</p> <p>○多様な人と関わることで, 相手に応じた言動・対応を考えられる児童が増えた。</p> <p>▲対人関係に課題を抱える児童がいる。</p> <p>□家庭・学校・関係機関で情報を共有して対応した。</p>
	2 志教育の推進	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・志教育全体計画の重点指導事項を踏まえた指導の充実 	<p>○「かかわる・もとめる・はたす」ことを意識し, 教育活動に取り組めた。</p> <p>▲「未来への翼」の効果的な活用を図る。</p> <p>□志教育を意識した教育活動を行い, 日常的に活用する。</p>
4 体 力 ・ 生 活 習 慣	1 体力向上に向けた取組	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト結果の分析と, 体力・運動能力向上のための運動の実施 ・運動カード(水泳, 持久走, 縄跳び等)を活用した意欲の向上 	<p>▲体力・運動能力テストの結果を踏まえ, 課題項目の改善を図る。</p> <p>□教職員で課題を共有し, 体育の指導を改善する。</p> <p>○各種の運動カードを活用することで主体的に取り組む児童が多かった。</p>

	2 基本的な生活習慣の育成	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ご飯等の習慣化 ・ノーチャイムでの時間・時刻の意識化 ・「やまもとのこども3つのやくそく」の啓発と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身に付けた児童が多い。 ▲少数ではあるが、生活習慣の乱れや忘れ物をする児童がいる。 □児童とともに家庭への働きかけを継続した。 ○時計を見ながら意識して行動することができた。
5 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・区長や民生児童委員、関係機関との日常的な連携 ・非常時に備えた避難所開設訓練の実施 ・町総合防災訓練での対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い及び顔合わせの場を設け、学校や地域の現状について情報交換することができた。 ○非常時に対応する訓練を行うことで教職員の意識を高め、動きを確認することができた。 ▲町防災訓練でのさらなる連携が必要である。 □学校の役割を確認し、緊急時に対応できるよう訓練に取り組む。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・個人毎の「避難確認カード」の作成と家庭との共有 ・マニュアルを定着させるための訓練等実施 ・避難訓練反省カードを活用した振り返り ・みやぎ防災教育副読本「みらいへのきずな」の活用 ・毎月の児童の防犯ブザー点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○「避難確認カード」で災害に遭遇した時の具体的な動きを児童・家庭と共有しながら把握した。 ○防犯ブザー点検をすることにより緊急時への意識を高めることができた。 ▲少数ではあるが、電池切れや破損で防犯ブザーを持参してない児童がいた。 □児童や家庭にその必要性を伝えて意識を高め、緊急時に使えるよう対応を促した。
6 い じ め 不 登 校	1 いじめ防止対策	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況を把握するためのいじめ調査やQ-Uテストの実施 ・毎月の子どもを語る会(生徒指導会議)での児童の情報共有と組織的対応の確認 ・好ましい人間関係をつくる学級経営 ・「いじめ問題対策委員会」による保護者・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の子どもを語る会で情報を共有し、必要な対応を組織的に行った。 ○調査結果を基に、望ましい人間関係づくりに取り組むことができた。 ▲表面化しにくい児童の交友関係を把握する。 □日常的な児童観察や児童との関わり等から状況を把握し、問題があれば早期に対応する。

	2 不登校対策	<u>Ⓐ B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況把握と早期対応 ・家庭との連絡・協力 ・居心地のよい学級づくり ・分かる授業づくり 	<p>○児童の実態や発達段階に応じ、学習指導や生活指導に努め、個々の児童に目を配った。</p> <p>○欠席時には家庭と連絡をとり、児童の様子を職員間で共有した。</p>
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	<u>Ⓐ B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りの地区回覧やホームページの公開 ・保護者アンケートの実施 ・区長やこども110番の家への定期的な挨拶回り ・放課後児童クラブ、スポーツ少年団との連携 ・中学校、幼稚園、保育所との連携 	<p>○学校からの情報発信を適宜行うことで、学校の状況を理解していただくことができた。</p> <p>○保護者アンケートを実施し、願いや思い・要望を把握することができた。</p> <p>○中学校での体験授業や小学校での幼児学級を行うことで、縦の連携を強めることができた。</p>
	2 説明責任の状況	<u>A Ⓑ C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員制度の活用 ・学校評価の公表、学校への理解促進 ・「いじめ問題対策委員会」の開催 	<p>○学校運営の成果と課題等について情報を共有し、評議員の考えを聞くことができた。</p> <p>○学校評価と児童アンケート等を取りまとめて公表することができた。</p> <p>▲学校情報や状況をさらに保護者・地域の方に理解していただく。</p> <p>□ホームページでの情報発信を更に周知し活用を促す。</p>
8 資 質 向 上	1 現職教育	<u>A Ⓑ C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究・国語科の授業研究を中核にした指導力の改善・向上への取組 ・ミニ研修による指導力向上への取組 ・外部講師を招いての研修の充実 	<p>○全教員が研究授業を行い、事後検討を行うことで、国語科の指導法について学びを共有し、深めることができた。</p> <p>▲学力テスト等の得点に反映することは難しい。</p> <p>□授業改善の意識を高め実践するとともに、児童の課題解決に向けた指導を継続した。</p> <p>○外部講師から継続した指導を受けることで、児童の声づくりや教員の合唱指導等で成果が得られた。</p>
	2 各種研修会への出席	<u>A Ⓑ C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力及び資質向上を目指した研修への積極的な出席 	<p>○宮城県総合教育センターでの研修をはじめ、各種研究会に出席し、指導に生かしている。また、必要に応じて研修内容を伝講しあった。</p>

9 特色 ある 教育 活動	1 安全で美しい環境作り	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示教育や農園での勤労体験, 季節感あふれる花壇経営 ・緊急時に即応できる避難所設置に向けた整備 	<p>○ボランティアの支援により季節にあった掲示や農園経営, 環境美化, 花壇経営を充実させることができた。</p> <p>▲校庭の除草や植木の剪定など, 季節によっては行き届かない状況があった。</p> <p>□教職員やPTAの活動で, できる範囲で対応した。</p> <p>▲教室に蜂が入ったり, 校舎ベランダに鳥やコウモリの糞が落ちていたりするなど対応に苦慮した。</p> <p>□安全・衛生面を考え, その都度対処した。</p> <p>○避難所設置用備品の管理を定期的に行い, 活用できるように準備することができた。</p>
	2 PTAとの連携	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・町連P事務局担当校をきっかけとしたPTA活動の活性化を図る取組 ・緊急メールの全戸加入に向けた働きかけ 	<p>○町連Pスポーツ大会への2チーム出場など, 多くの保護者を巻き込む活動ができた。</p> <p>○リサイクル, バザー, 美化活動等を行い多くの保護者から協力を得られた。</p> <p>○全戸加入でメールを効果的に活用することができた。</p>
	3 地域の人材や素材の活用	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア等の活用 ・教科や総合的な学習の時間等の地域学習の充実 	<p>○農業ボランティアや読み聞かせボランティアの活用により, ねらいを踏まえた活動を行うことができた。</p> <p>▲地域学習の素材の開拓が必要である。</p> <p>□関係機関等と連絡を取り合い, 情報収集した。</p>

山元町立山下第二小学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

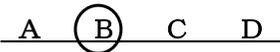
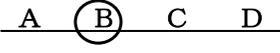
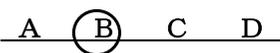
No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(箇条書き)
1 学校 教育 目標	(知) まなび合う子ども	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎, 基本の定着を目指す学習意欲の向上と「分かる授業」の創造 ・思考力, 判断力, 表現力の向上につながる学習活動の工夫 ・少人数指導, TT指導の積極的推進 ・読書活動の積極的推進 ・「話す活動」と「書く活動」の計画的推進 ・確かな学びにつながる家庭学習の推進 ・学ぶ意欲を刺激する言語環境, 掲示物の整備充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において学習のめあてを提示し, まとめの段階で学習の振り返りや感想を書かせることで, 教員が児童の理解度を把握し, 個に応じた学習指導を進めてきた。 ○校内研究と関連し, 単元を貫く言語活動を設定することで, 進んで自分の考えを持ち, 主体的に友達と意見を交流しようとする児童が増えた。 ▲家庭学習の習慣化と学習内容の工夫がさらに必要である。 ・家庭学習に進んで取り組んでいる (児童 75% H29.2) (保護者 72% H29.2) □「家庭学習のすすめ方」について, 4月のPTA総会で保護者に紹介し, 学年部ごとに改訂版を配布し協力をお願いした。

<p>〈徳〉</p> <p>にこやかな子ども</p>	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> A B C D </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の道徳教育の充実と家庭や地域との連携を視野に入れた道徳教育の推進 ・たてわり活動を生かした異年齢集団の体験活動とリーダーを中心としたグループ活動の設定 ・伝承遊びの体験活動や地域文化の体験活動と伝承の奨励 ・学校,家庭,地域での共通理解と指導体制の確立 ・子どもを守る視点に立った施設,設備,用具等の安全管理 ・教育相談(心のケア)の充実 	<p>○担任は授業参観において積極的に道徳の授業を実施しており,家庭や地域を題材として取り上げるなどの工夫が見られた。</p> <p>○本年度より,つばめの杜中央公園の管理団体と協力し合い公園の清掃活動が計画されるなど,より実践的な道徳教育を推進している。</p> <p>○たてわり活動では,高学年がリーダーとなり,グループ活動を実施する中で下学年を思いやる行動がたくさん見られた。</p> <p>○伝承遊びや地元に伝わる民謡を覚えるなど,地域人材の活用をすることで,地域文化の伝承を図ることができた。</p> <p>▲気持ちのよい挨拶については児童と教員の評価に隔たりがあった。</p> <p>[よい・おおむねよいとした回答率] (気持ちのよい挨拶ができています。 児童 86% 教員 43%)</p> <p>○昨年度より活動していただいている「子ども安全見守り隊」の方々には子どもたちの挨拶がよくなったとほめていただいている。</p> <p>□結果について保護者に公表するとともにサポート委員会でも話題にし,子どもたちのよいところをほめ,家庭でも声がけしていただく。</p>
<p>〈体〉</p> <p>やり通す子ども</p>	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> A B C D </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力,運動能力の向上を図る ・運動能力向上策の検討,実施 ・明確な目標を持たせた教科体育の推進 ・「はやね・はやおき・朝ごはん」を基礎とした健康教育の推進 ・食を大切に健康教育の推進 ・保護者と連携した基本的な生活習慣づくり(携帯・スマホやゲームの指導徹底) 	<p>○スポーツテストの結果を生かし,俊敏性や柔軟性を必要とする運動能力の改善と向上を図ることができた。</p> <p>○本年度も各学年にあったテーマで食育の大切さが児童にも分かるように,栄養士さんを講師とした授業を継続している。</p> <p>▲スマホ所持率と使用時間,学習時間の結果(29.1 6年生調査) (スマホ所持率 83% 4時間以上使用 30.4% 学習1時間未満60.8%)</p> <p>□PTA総会で集計結果を基にスマホの使用のさせ方と保護者の管理責任および「山元の子どもの約束」についてお知らせした。</p>

<p>2 学 力 向 上</p> <p>1 基礎学力の定着</p>	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業前時間における計算, 漢字練習への取り組み ・月2回の読み聞かせボランティアによる読書活動 ・学習習慣を身に付ける「山ニスタンダード(学習規律)」の徹底 ・中学年, 高学年におけるTT指導(算数, 理科, 外国語活動)による授業の充実 ・週末プリントの実施 ・各教科における授業の進め方を全校で統一 ・「夏休み学習会」の実施 	<p>○朝の活動に落ち着いて取り組むことで1日のリズムを作り, 学習・生活に集中して取り組むことができています。 ○読み聞かせの時間を楽しみにしている児童が増えた。</p> <p>○学習習慣の定着が学力向上につながると考え, 「山ニスタンダード」を改善し, 保護者にもお知らせしている。 ○全学年で学習規律が図られており, 集中して学習に取り組む環境が整っている。</p> <p>○加配を生かしたTT指導を実施し, 複数体制で授業を行っており, 個に応じた細かい指導を行っている。</p> <p>○毎週末学習プリントを課題とし継続して取り組んでいることで, 漢字の書き取りの力や計算力が伸びている。</p> <p>▲家庭学習など学習習慣が十分に身につけていない児童が固定化される傾向にある。教育相談や懇談会などでさらに家庭と協力していく必要がある。</p> <p>□校内研修と学力向上を関連させて, 指導方法の確認, 課題等を克服できるようにする。</p>
---	--	--	--

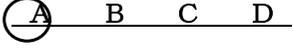
<p>2 活用する力の伸長</p>	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> •授業の指導過程の工夫と発展問題等への挑戦 •既習事項の想起と自己解決へのヒントを得ることができる学習環境作り •児童が考えをもち、友達と交流し合う場面を設定した授業の展開 •標準学力調査を実施し、児童の学力の推移を把握し、全国学力調査の結果との関連を考察する 	<p>▲TT指導や少人数指導の充実を図っているが、子どもたちの学力が二分化され、基礎学力の定着が必要な子どもと活用力を伸長する子どもとに別れる。</p> <p>□基礎学力の定着を図り、個に応じて活用力を伸ばすように指導のあり方を工夫していきたい。</p> <p>○国語科を中心に、各教科において課題に対する自分の考えをもち、その根拠を話すことができるように指導してきた。授業の中で、友達と考えを交流し合う場面をつくり出し、よりよい考えに気づく子どもも見られるようになった。</p> <p>▲学力状況調査では、活用する力が県および全国平均より低いので、活用する力を育てる指導が必要である。(正答率県平均との比較 国語-7.8P 算数-10.8P)</p> <p>□標準学力テストにおいては基礎学力の定着を中心に推移を把握し、全国学力調査では活用力や問題文から問われている内容を理解する力を身に付けさせていく。</p>
<p>3 主体的・体験的学習の展開</p>	<p style="text-align: center;">(A) B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> •各教科における体験的学習の重視 •宿泊学習における自然体験学習の充実 •地域の伝統を取り入れた学習 •各教科や総合的な学習において、課題解決型学習や体験的学習を意識したカリキュラムの自校化を図る 	<p>○基礎的な知識を得るだけではなく、自動車工場や七ヶ宿ダムの見学など各学年の学習内容、発達段階にあった体験を重視して実施している。</p> <p>○地域の民謡を習い学習発表会で披露するなど、地域の伝統を学び、ふるさとを愛する心が育っている。 □学校移転後、地域の産業や文化を取り入れるカリキュラムを工夫し実践している。今後もいちご農園やグリーンプロジェクトなど、主体的で体験的な学習に取り組んでいる。</p>

<p>3 心の教育</p>	<p>1 心のケアを含む 心の教育</p>	<p>Ⓐ B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加配教員による複数体制による学級経営とTT授業の実施 ・スクールカウンセラーによる全校カウンセリングの実施 ・必要に応じた教育相談(SSWや外部機関とのつながり) 	<p>○学校生活の様子が心配される児童には、複数体制により素早く対応することができた。</p> <p>○全員カウンセリングで得た情報により、個に寄り添った支援を行うことができた。</p> <p>▲新校舎への移転後、1年を迎えるが新しい行政区としての地域住民の意識は高まっておらず、学校も協力して地域とのつながりを模索していく必要がある。</p> <p>□学校とPTAが協力し、保護者同士や地域との交流をつくりだし児童の心の安定と安全を図り、環境の変化に対応する体制と組織を整える。(行政区の確立と子ども会の再生)</p>
	<p>2 志教育の推進</p>	<p>Ⓐ B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのかかわりを大切にして将来の夢や希望に向かっていこうとする児童の育成 ・外部人材の積極的な活用 ・ジュニアリーダーの活用 ・プロスポーツ選手の招待 	<p>○地域の伝統芸能である「笠浜甚句、花釜音頭」などを地元講師を依頼して習得し、学習発表会で披露し、地元を愛する心を育てることができた。</p> <p>○いちご農園やグリーンプロジェクトなど地域の講師を積極的に依頼し、どのような思いで活動しているのか、山元町の復興に向けた思いなどを学習することで、将来への夢をもち実現へ向けて見通しをもつことができた。</p> <p>▲毎年の活動をもとに指導計画に朱書きを入れるなど、自校化を図る必要がある。</p> <p>□今年度の反省を記録し、年間指導計画の見直しと改善を図る。</p>
<p>4 体力・生活習慣</p>	<p>1 体力向上に向けた取組</p>	<p>A Ⓑ C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上委員会の設置 ・スポーツテストの実施・結果の考察と対応 ・全校で統一した水泳カードを使用し泳力の向上に取り組む ・体を動かす機会が減る冬季に向けてなわとび運動の推奨 	<p>○新校舎へ移転し、校庭で遊ぶ児童が増え、普段から学年の垣根を越えて異学年で外遊びやボール運動をしている児童が多く見られた。</p> <p>▲ボール運動など特定の運動をする子どもは多いが、運動領域全般には広がりが見られない。</p> <p>□年間を通した体力作りの計画、外遊びの推奨、教科体育での幅広い運動領域の指導を行い、スポーツテストで数値の低かった運動を補う。(H28 全国平均値以下 反復横跳び 立ち幅跳び 20mシャトルラン 50m走)</p>

	2 基本的な生活習慣の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・「はやね・はやおき・あさごはんがんぱりカード」を使用した児童と保護者への啓発 ・児童の発達段階に応じた生活目標の設定と反省 ・ゲームや携帯電話の使用について考えるE-ネット安心講座の開設 	<p>○PTA総会で保護者にカードを使用した取組に協力を依頼し、生活習慣の育成に取り組んだ</p> <p>▲特定の児童に、登校時間に間に合わない、寝坊や忘れ物などの生活習慣の乱れが見られ。</p> <p>□生活習慣の多くは、母子家庭など保護者の多忙な生活と就労のリズムによる者が多かった。学校として、子どもたちの実態や改善すべき点について情報を保護者に伝えていく。</p>
5 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制		<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、防災学習と訓練を実施し、町総合防災訓練にも積極的に参加する。 ・近隣の子どもセンターやつばめの杜保育所とも連携した訓練を行う。 	<p>○一斉メール配信は効果的に活用できている。(登録保護者100%)</p> <p>○新校舎移転後、子どもセンターとつばめの杜保育所と合同で津波想定避難訓練を行った。</p> <p>□役場まで避難したが、地域防災の視点から協力し合いながら、児童や子どもたちの安全を守る必要性を感じた。</p>
	2 大震災の経験を生かした防災教育		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急配信メールを活用した一斉引き渡し訓練 ・子どもセンターやつばめの杜保育所とも連携した訓練を行う。 ・避難訓練や安全集会等を生かした防災意識の育成 ・防災読本「未来へのきずな」の活用 	<p>○緊急メールを活用し、緊急時の引き渡し訓練を滞りなく実施することができた。</p> <p>▲これまでは津波の経験を想起させないように配慮してきたが、大震災の風化とともに大きな被害をもたらした津波災害についての防災教育を考える必要がある。</p> <p>□子どもたちの実態を把握しながら、防災読本を活用した防災教育の実践を行う。県発行「指導の手引」の活用をする。</p>

6 いじめ 不登校	1 いじめ防止対策	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導の実践 ・「生活アンケート」の実施と共通理解 ・「Q-Uテスト」の実施と考察 ・毎月の職員会議での各学年の情報交換 ・問題行動が起きそうな時、起きた時は、ケース会議を開き、担任を含め全校での対応を決め、全員で共通行動をとるようにする。 ・危機管理の「さしすせそ」の徹底。 ・スクールカウンセラーによる全校カウンセリングの実施 	<p>○アンケートの内容から、より早く情報を集め、対処している。（4月より いじめ認知 0件）</p> <p>○スクールカウンセラーの教育相談は児童の交友関係や悩みを把握し、学級経営、生徒指導に役立てることができた。</p> <p>○細かなトラブルはあるが、一人で抱え込むことなく職員室でも対応について職員間で共有することができている。 ▲現在はいじめと認知される案件はないが、細かなトラブルも子どもへの指導より保護者への伝え方が難しい。</p> <p>□いじめ対応についての研修は、毎年行っていききたい。</p>
	2 不登校対策	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・登校しぶりが見られる場合の対応体制の整備 ・3日以上事由が明確でない欠席が続く場合は、直ちに家庭訪問、場合によっては、ケース会議を開催し、対応を図る。 ・全校カウンセリングの実施 	<p>○気になる児童とその保護者とは良好な関係が築けており、教育相談を行うなど協力しながら素早く対応することができている。（不登校0件）</p> <p>▲不登校を生まない学校、学級づくりを行うようにする。</p> <p>□外部機関との連携や必要に応じた研修の実施。</p>
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・フリー参観を設定し、祖父母学級を開催する。 ・「山二ふれあい広場」への保護者、地域住民の招待 ・「学校だより」の地区民への配布 ・ホームページによる学校情報の公開 ・サポート委員会での学校経営の説明と学校評価に対する助言 	<p>○フリー参観の実施と祖父母学級を行うことで、普段の学校生活を参観していただき、祖父母との交流の時間も確保することができた。</p> <p>○「山二ふれあい広場」では、保護者の協力を得て実施し、地域との交流を作り出すことで、学校や子どもの様子を知ってもらうよい機会となった。</p> <p>▲移転して1年が経ったが、なお地域住民に開かれた学校として交流する機会を設けるなどさらに努力する必要がある。</p> <p>□地域の人材や素材を生かした学習活動を推進し、地域の方々と学校とのつながりを多くつくりだす。</p>

	2 説明責任の状況	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の公開とその後の対応についてのお知らせ ・「学校だより」の定期的発行 ・学校へ対するクレーム等には、迅速に対処し、家庭訪問をするなどできる限り直接対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校への要望については、迅速に、誠実に対応できている。 ○地域を意識した「学校だより」を発行し、学校運営について理解をもらうようにしている。 □職員の対応について研修を実施する。 □職員間で情報の共有化をする。
8 資 質 向 上	1 現職教育	(A) B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究として「国語科」を取り上げ、単元を貫く言語活動の在り方と学力の向上を図る。 ・先進校の公開研究会や外部講師による研修会へ積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が行う研究授業の実践により国語の授業の質を向上させることができた。 ○外部講師による研修会や先進校の公開授業研究会を見て自校化するなど教育技術を身に付けようとする姿が見られた。 ▲校内研修や事後検討会の時間の確保が難しく、十分にできないことがあった。 □週時程の工夫により、校内研修の時間確保を行う。
	2 各種研修会への参加	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・研修センターで行われる、専門研修や職能研修に積極的に参加し、研鑽を深める。 ・県内外の公開研究会等に積極的に参加し、先進校の取り組み視察し、伝講会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員は研修意欲があり、多くの先生が研修センターへの申込をし研修を受けている。 ▲校内研究の質を高め、先進校の授業を自校化していくためにも県外出張へ効率よく行かせたい。 □事務長と連携し、予算を計画的に配分し、県外出張にも積極的に参加させる。
9 特 色 あ る 教 育 活 動	1 体験活動を重視した学習計画	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・協働教育や志教育と連携した、地域素材と地域人材の活用 ・総合的な学習の時間における地域の学習 ・特産品である「いちご」や復興に向けた「グリーンプロジェクト」等の学習 ・地域の伝統である民謡の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元のイチゴ農家や特産物の学習を通して、地域を知り、愛する児童を育てることができた。 ○沿岸部の復興に向けた「グリーンプロジェクト」に参加し、子どもでも参加可能な復興への活動を行うことができた。 ▲地域学習の年間計画に朱書きを入れ改善することが必要である。 □生涯学習課と連携した協働教育を積極的に取り入れていく。

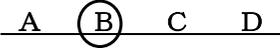
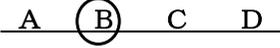
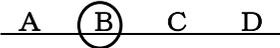
<p>2 縦割り活動を生かした活動</p>		<p>・運動会などの行事にも縦割り班を活用することにより、年度当初から6年生のリーダーシップと上、下学年の縦の関係をつくる。 ・「ふれあいタイム」を設定し、年間を通して5、6年生をリーダーとしたたてわり活動を実施。 ・PTAと協力し、「山二ふれあい広場」をたてわり班を生かして実施。</p>	<p>○異学年との交流を意図としたたてわり活動により、6年生のリーダー性の伸長を図るとともに児童同士の思いやりの姿が見られた。 ○「山二ふれあい広場」では、保護者、地域との交流を通して山二小の連帯感を味わうことができた。 ▲充実したたてわり活動のための年間計画の見直しが必要である。</p>
<p>3 町の復興を意識した取組</p>		<p>・「町の復興に向けて何かをしたい」という願いからスタートした、6年生の「山二小輪太鼓」への取り組みは、運動会や学習発表会、町の行事でも披露している。（平成24年度より） ・総合的な学習の時間「街をきれいにしよう」での、美化活動。</p>	<p>○「震災後の町を元気づけたい」という動機からはじまった山二小輪太鼓は、新しい山二小の伝統になっている。「町びらき」や愛媛県からの支援で行われた「餅つき大会」などでも輪太鼓を披露し思いを伝えることができた。 ▲新校舎移転の後、新市街地をきれいにしようとする態度や学校を大切にしようとする姿勢を育て奉仕する心を育てたい。</p>

山元町立坂元中学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(箇条書き)
1 学校 教育 目標	(知) (自立) ○目的を持って自ら学び、自立する生徒	A (B) C D	(1) 自らの在り方や生き方を追究する意欲の向上 ・体験的学習を通して将来の目標やそのためにやるべきことを考えさせ、志シートに記入させる。 (2) わかる・できる授業づくり ・1時間の授業の目標を明確にし、授業の最後に振り返りの時間を設け、家庭学習につなげる。 ・授業での理解力を定着させるための家庭学習に取り組みさせる。	○総合的な学習(職場体験)等での進路学習を通して自分の将来についての目標をもつことができた。 ▲自ら考え、判断し行動する生徒が少なかった。 □生徒の自主性を伸ばす指導・支援のあり方を工夫していく。 ▲家庭学習時間は増えたが自分にあった自主学習の仕方がわからない生徒が多い。 □生徒一人ひとりにあった家庭学習の方法等を助言して取り組みさせる。
	(徳) (奉仕) ○思いやりと奉仕の心を持った、心豊かな生徒	A (B) C D	(1) 集団や社会に貢献しようとする態度の育成 ・学級での役割を「はたす」力を学級の係等で身に付ける。 ・坂中祭・三年生を送る会の役割を責任をもって行う態度を育てる。 (2) 生徒自身によるボランティア活動の推進 ・自ら考え取り組む被災地域への募金活動	○生徒会役員を中心に支援をいただいた人への感謝の気持ちを表すことができた。(真穴小・中等へのお礼・りんごラジオへの感謝のメッセージ) ○熊本県益城町の中学校への募金活動を生徒会執行部中心に自主的に行った。 □更に自主的にボランティア活動等に取り組めるよう指導を工夫していく。
	(体) (健康) ○心身ともに健康で、たくましい生徒	A (B) C D	(1) 自らの健康と命を大切にす教育 ・毎日の個に応じた健康観察の実施(健康ファイル) ・新学期開始一週間生徒全身体温計測 ・全校歯みがきタイムの実施 ・安全に関する意識の向上(薬物乱用防止・口腔講話・スマホ教室) ・委員会活動でのポスターによる啓発活動 ・PTA講演会「大切な命だから」	○薬物乱用防止教室の講師を互理警察署からまねき危険薬物が身近にあることを理解した生徒が多かった。 ▲昨年度同様に基本的な生活習慣の乱れ(朝食抜き・寝不足等)から体調を崩す生徒がいた。 □自分で健康管理ができるように保健だよりや保健室での助言を充実させる。とともに教育相談等で担任より家庭の協力をお願いする。

2 学力 向上	1 基礎学力の定着		<p>(1)個に応じた学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科・英語科で全学年TT指導を行い、県学力検査等で県平均以上を目標とする。 ・数学・英語の授業の中でのまなびの森の学習支援 <p>(2)家庭学習の習慣化を図るための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートの活用・教員によるノート点検 <p>(3)放課後・長期休業中の学習支援の充実(Sタイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象に放課後(部活動なし)等に学習会 ・部活動引退後の3年生の放課後の学習支援(まなびの森) ・長期休業中の学習支援 	<p>▲全国・県学力検査ともに県平均以下であった。</p> <p>○県学力検査では27年度数学が-4.4Pから28年度-1.8Pに県平均に近づき、英語は27年度-6.9Pから28年度0.5Pへと県平均以上となり目標を達成できた。</p> <p>○放課後の学習支援が143日間(内夏季・冬季休業24日間)実施され、3年生の受験勉強の支援となり、90%の生徒が第1志望の高校に進学した。</p> <p>□生徒一人一人のつまづきを把握し、個に応じた支援を工夫していく。</p> <p>□家庭学習の習慣を身に付けるための取組を具体的に示し実践していく。</p>
	2 活用する力の伸長		<p>(1)互いの思いや考えを伝え合う集団作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題追求のための話し合いの評価の観点の明確化 ・生徒の思考力・判断力を重視した授業場面の設定 <p>(2)学力向上サポートプログラム事業を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学の研究授業を通して、各教科の授業作りに生かす検討会の実施 	<p>○県学力検査の結果から思考力・判断力・表現力では県平均と比べて国語で県平均、数学で+0.9P英語で+3.8Pとなっており活用する力が身に付きつつある。</p> <p>□課題解決に必要な基礎学力の定着を更に図る。</p> <p>□校内研究のねらいに即した授業研究と検討会を重ねていく。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開		<p>(1)総合的な学習の時間「おもだか」の計画と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や教育力の積極的な活用 ・1年 仮設住宅ボランティア活動 坂元おけさ ・2年 職場体験学習 シェークスピアカンパニー <p>(2)教科での体験的学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年 保育園訪問実習 	<p>○体験的な学習を通して「人とかかわることの大切さ」「コミュニケーション能力の必要性」を知ることができた。</p> <p>▲主体的な活動を行うことが少なかった。</p> <p>□活動計画の中に自ら考え、行動出来る場を積極的に取り入れる。</p>

3 心の教育	1 心のケアを含む 心の教育	A (B) C D	(1)個に応じた心のケアの対応 ・被災生徒・家庭への支援 ・スクールカウンセラーとの連携 ・二者・三者面談, チャンス相談の活用 (2)道徳教育の充実 ・「道徳」の時間の充実(価値項目を意識した発問の工夫・一人ひとりの考えをまとめるワークシートの工夫)	○朝の会・帰りの会, 給食指導等に副担任も参加し, 生徒の変化に早く気づき, チャンス相談等の機会を多く持つことができ保護者アンケートでも「先生は相談に適切に応じてくれる」の項目でやや当てはまる・当てはまるが90%である。 □道徳の教科化に向けて教員の研修を行い, 評価等について共通理解を図っていく
	2 志教育の推進	(A) B C D	(1)人との関わりの中で育む社会性と勤労観 ・職場体験学習・志シートの活用・みやぎの先人集の活用 ・社会人(スポーツ選手・高校教師等)からの講話を聞き, 自分の将来・今の自分について考えさせる。 (2)社会で果たすべき役割を考えさせる指導 ・地域における役割を考えさせ, 地域に役立つ活動をさせる。	○職場体験・社会人の体験談を聞くことで自分の生き方について考えさせた。 ○熊本地震義援募金活動や仮設住宅除草作業等では社会で果たすべき役割を考えた活動に取り組めた。 □更に生徒が進んで地域に役立つ活動について考える場を生徒会活動や総合的な学習の時間に設ける。
4 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A (B) C D	(1)授業での準備運動の工夫(保健体育科) ・ジョグ・柔軟体操・補強運動(腕立て, 腹筋等)を毎時間おこなう。 (2)全校体育での講習会実施 ・外部講師による効果的なトレーニング方法	○準備運動を毎時間取り入れることで学年が進むにつれて体力がついた。 ▲スポーツテストの結果, 敏捷性・柔軟性が劣っている。 □敏捷性・柔軟性を高めるトレーニング講習会を実施し部活動で継続して行っていく。正しいフォームの指導を行う。 □スポーツテストの結果を各部活動顧問に周知し, 部活動に必要な体力項目の改善に利用する。
	2 基本的生活習慣の育成	A (B) C D	(1)月ごとの生活目標で生徒への意識の向上 (2)生徒会活動による朝のあいさつ運動・身だしなみチェックの実施の強化 (3)チャイム着席の徹底	○生徒の自主的な活動があいさつや身だしなみに対しての意識を高めた。 ○時間を意識して自ら行動できている。 ▲体調不良を訴える生徒の多くは朝食抜きや睡眠不足にあった。 □学年PTAや保健だより等での呼びかけを毎回行い, 保護者の協力を得る。

5 防 災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	(1)危機管理体制の確立 ・安全管理・危機管理マニュアルの見直しを行い、より実態に添ったものに再構築する。 ・避難所設営・運営マニュアルの自校化 ・月1回の施設点検	▲11月22日避難所設営(津波警報)での教員の動き等について円滑に出来るような体制作りが必要であった。 □危機管理と避難所運営のマニュアルについて防災主任を中心に防災担当のチームで見直しを図る。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A B C D	(1)自己の安全意識を高める防災教育の実施 ・町総合防災訓練への参加 ・年2回避難訓練 ・避難所設営・救命講習会・防災講話(仙台管区気象台より講師派遣)	○災害時避難時の行動を自ら考えてできるように生徒に考える場面を設定した授業を展開することができた。 ▲自分で身を守るための行動を更に意識させて防災教育に取り組む必要がある。 □より効果的に防災意識を高める防災教育年間計画を見直していく。
6 い じ め 不 登 校	1 いじめ防止対策	A B C D	(1)いじめ防止 ・いじめ問題対策会議の開催 ・生徒によるいじめ防止標語募集への参加 ・全職員によるいじめ防止のための研修会の実施 (2)いじめの把握 ・学校生活アンケートの実施と結果を基にした生徒対応 ・職員間で情報を共有し早期発見・早期対応を行う。	○いじめ問題対策会議を開き、地域、PTA、学校でいじめに対する意識を確認することができた。 ○学校生活アンケート(毎月実施)では、いじめにつながることは出てこなかった。 ○生徒の様子を多方面から観察し教員間で情報を共有しながら対応することができた。 □いじめの未然防止の取組として生徒の手による啓発活動を考えさせる。
	2 不登校対策	A B C D	(1)登校支援の工夫 ・ケース会議を定期的で開催し、実態把握や対応策をチームで考える。 (2)不登校等の対応と外部機関との連携 ・スクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら個々の生徒への支援等を計画していく。	▲一年生に不登校傾向の生徒が2名、休みがちな生徒2名と状況を把握するだけになり、具体的な対応・支援計画を示し実行することができなかった。 ▲ソーシャルワーカー等の連携がうまく機能しなかった。 □学年担当だけでなく、不登校担当教員等を含めてチームとして対応できるように密に情報を共有して具体的な支援方法を計画・実行していく。

9 特色ある教育活動	1 キャリア教育の充実	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<p>(1) 自分らしい生き方の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心に対応した地域での職場体験学習を実施する。(協働教育コーディネーターとの連携) ・上級学校の教師や先輩からの話を聞き、自分の生き方について考える。(話し方教室3年・進路講話2年) ・スポーツ笑顔の教室(2年)チャレンジド・スポーツ体験教室(全校) スポーツ選手の生き方についての講話 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の事業所の方々や高校の先生の話聞き、将来の進路について考えることができた。 □協働教育コーディネーターとの連絡を密に行うことで更に円滑な活動にしていく。 ○スポーツ選手の貴重な体験談を通して自分の生き方を考えることができた。
	2 地域と共に歩む協働教育の推進	<input checked="" type="radio"/> A B C D	<p>(1) 総合的な学習, 教科, 学校行事における地域との連携を図った教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年仮設ボランティア・老人会とのグラウンドゴルフ大会・坂元おけさ・2年職場体験学習(総合) ・保育園実習(家庭科) ・坂中祭広報活動(生徒の手によるチラシ配り) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々と交流する機会を設けることで生徒が地域の中ではぐくまれていることを意識し、地域に貢献しようとする意識が芽生えた。 ○地域の方からも今後も続けて欲しいと言われた。 ▲震災から6年が経過し仮設ボランティアの内容の検討が昨年度に続き必要となっている。 □地域の方の意見を取り入れながら実態にあった取組を計画的に実行していく。

山元町立山下中学校

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

様式1

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題(○:成果, ▲:課題, □対応策)
1 学校 教育 目標	〈知〉 真剣な学習活動が行われる学校	A B C D (B)	<ul style="list-style-type: none"> ・加配教員を活用した少人数指導やTTによる指導 ・学習塾(学びの森)と連携を図ることにより個別指導の充実 ・SUN(ステップ・アップ・ノート)を活用した家庭での学習習慣の形成 	<p>○英語科・数学科において、教員を複数配置し、個に応じた学習に取り組むことができた。</p> <p>○学習塾の協力により、放課後の学習会等で個々の課題別に対応することができた。</p> <p>▲SUNへの取組がマンネリ化しており、家庭での学習成果が上がらない。</p> <p>□SUNへの取組に、個に応じた課題プリント等を活用することにより、個別的な支援策を図っていく。</p>
	〈徳〉 明るく秩序のある学校 集団としてのきまりが身に付く学校	A B C D (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時のあいさつ運動の実施 ・Q-Uを活用した学級集団づくり ・生徒の自主性を生かした学校行事の運営 	<p>○校内でのあいさつが日常的に交わされ、明るい雰囲気が形成された。</p> <p>○各学校行事において生徒主体の活動がなされ、成就感や自己肯定感を養うことができた。</p> <p>▲Q-Uの結果を生かした集団づくりには、教員側の研修が必要となる。</p> <p>□生徒個々のよさを認め、励ましながら指導にあたっていく。</p>
	〈体〉 教師と生徒が一緒になって汗を流す学校	A B C D (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育や部活動での運動量の確保 ・教員と生徒が共に行う清掃活動 	<p>○部活動において、運動量が確保され郡駅伝大会アベック優勝など中体連大会での活躍が多く見られた。</p> <p>○清掃活動に進んで取り組む生徒が増えた。</p> <p>▲文化部に所属する生徒の体力向上策に課題がある。</p> <p>□率先垂範を心がけ、生徒と共に活動に取り組んでいく。</p>

2 学 力 向 上	1 基礎学力の定着	A B (C) D	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やTTによる指導の充実 ・「たて持ち」による授業の実践 ・学習塾と連携した個に応じた指導の充実 	<p>○SUNへの取組により家庭学習の習慣化が図られた。</p> <p>○複数の教員配置による授業実践で、学習に対する興味・関心の向上を図ることができた。</p> <p>○放課後学習などに積極的に参加する生徒が増えた。</p> <p>▲全国学力・学習状況調査に結果において、全国や県の平均値を下回り基礎学力の定着には至っていない。</p> <p>□個に応じた指導の充実を、さらに充実させ、効果的な指導のあり方を模索する。</p>
	2 活用する力の伸長	A B (C) D	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の機会を設定することによる、コミュニケーション能力の向上 	<p>○ペア・グループ学習を取り入れた指導が、各教科で実践できた。</p> <p>▲自分の考えを表現することが得意でない生徒が多い。</p> <p>□生徒自らが課題を設定し、PDCAサイクルを意識した指導法を心がけていく。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・「p4c」の手法を導入し、アクティブラーニングとつなげる ・修学旅行や職場体験学習を通して、体験活動の充実 	<p>○自己の生き方や将来を考える良い機会となっている。</p> <p>▲体験を自己の将来に結びつけ、発展的に考えることができない生徒が多い。</p> <p>□様々な場面において体験活動の充実を図っていく。</p>
3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWとの連携強化 ・例月の学校生活アンケートの継続実施 ・生徒の変容の早期発見、早期対応 	<p>○いじめ不登校対策担当者を中心として、問題を抱える生徒に対しての支援チームを編成しながら対応策等検討している。</p> <p>▲長期の不登校生徒に対して、支援の成果が中々あらわれない。</p> <p>□SSWとの連携を強化しながら、家庭環境の改善策を見出していく。</p> <p>□津波被害や原発避難者へ配慮しながら見守りを継続し、心のケアを図っていく。</p>

	2 志教育の推進	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習, 高校訪問の実施 ・修学旅行での企業訪問の実施 ・町のイベントや地域でのボランティア活動への参加 	<p>○職場訪問や高校訪問において, 自己の将来について見つめることができた。</p> <p>○ボランティア活動に参加し, 満足感や自己肯定感を味わうことができた。</p> <p>□「かかわる」「もとめる」「はたす」活動を意識しながら, 意図的に諸活動に取り組ませる。</p>
4 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業における運動量確保 ・部活動での基礎体力作りの推進 	<p>○全校体制での駅伝大会への取組が結果として表れ, 男女アベック優勝につながった。</p> <p>□体力・運動能力テストの結果を分析し, バランスの良い運動処方に心がける。</p>
	2 基本的な生活習慣の育成	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな1日のスタートを切る朝読書の推進 ・全校体制で取り組むあいさつ運動 ・共通理解・行動の上での生徒指導事項 	<p>○朝読書が習慣化されつつあり, しっとりと朝の時間を迎えられる。</p> <p>▲校外でのあいさつができていないという指摘が, 保護者アンケートに見られた。</p> <p>○ほとんどの生徒が学校の決まりを遵守し, 落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>□あいさつの意義等を生徒に粘り強く指導し, 教員自らが進んであいさつの励行に心がける。</p>
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B (C) D	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会組織等の地域団体との連携 ・町との協働による総合防災訓練の実施 	<p>○定期的に防災倉庫の確認を行い, 発災時に備えている。</p> <p>▲町や自治会組織等との情報交換が滞り, 連動した訓練の実施には至っていない。</p> <p>▲避難所開設に当たっての初動の動きが教職員や生徒に浸透しておらず, 避難所開設訓練実施の必要がある。</p> <p>□安全担当主幹を中心に, 学校間または地域との連携を強化し, 具体的な発災時の対応マニュアルの整備と訓練を行っていく。</p>

	2 大震災の経験を生かした 防災教育	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 多様な避難・防災訓練の実施 震災を風化させないための活動の実施 	<p>○避難訓練の反省を生かし、防災マニュアル等の改善に努めた。</p> <p>○国内外の災害における支援活動に、生徒自らが立ち上がり、募金活動等に取り組む姿勢が育っている。</p> <p>▲避難・防災訓練の持ち方がマンネリ化傾向にあり、内容の精査が必要である。</p> <p>□被災生徒の心のケアに努めると共に、震災を風化させないための活動に取り組ませていきたい。</p>
6 い じ め 不 登 校	1 いじめ防止対策	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 例月の学校生活アンケートの実施 教職員の情報共有の教科 Q-Uを生かした学級集団づくり 	<p>○学校生活アンケートの実施で、生徒の心の状態を把握し、チャンス相談を行った。</p> <p>○いじめ発生時には迅速な対応を行い、最小限の被害に止めることができた。</p> <p>□状況によっては、SCや関係諸機関等と連携を行い、迅速かつ柔軟に対応していく。</p>
	2 不登校対策	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 欠席が3日続いた生徒への早期対応 支援チームの結成と対応策の協議 別室登校生徒への細やかな対応 	<p>○登校支援ネットワーク事業を実施し、生徒への対応策等の研修を深めることができた。</p> <p>○SCやSSWとの連携を強化し、チームとしての対応が図れた。</p> <p>▲別室登校生徒への適切な支援が不足している。</p> <p>□不登校対策には迅速な対応が肝となるので、家庭や関係機関と連携しながら支援・対応していく。</p>
7 地 域 連 携	1 開かれた学校づくり	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りの積極的な発行による情報発信 ホームページの定期更新による情報発信 フリー参観日の設定 	<p>○学校だよりをはじめ、学年・学級通信とう積極的に発行し、生徒の様子を情報発信することができた。</p> <p>○学校だよりについては行政区ごと回覧を行い、地域住民への情報発信を行った。</p> <p>▲ホームページの更新が不定期となり、後手に回ってしまった。</p> <p>□情報発信のみならず、学校に保護者地域の方々が来校しやすい環境を整えていく。</p>

	2 説明責任の状況	A <u>B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校へのクレーム等への丁寧な対応 生徒・保護者アンケートの実施と集計結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> 学校への苦情処理には丁寧かつ迅速な対応ができた。 アンケートの実施と結果の公表を確実に行うことができた。 アンケート内容の見直しを行い、今後の学校運営に役立てる。
8 資 質 向 上	1 現職教育	A B <u>C</u> D	<ul style="list-style-type: none"> 各種公開研究会への積極的な参加 職員間の情報交換を活性化することにより、風通しの良い職員室の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ▲校務多忙の影響もあり、公開研究会等への参加が消極的なものとなってしまった。 □教職員としての資質向上のため、自己の研鑽に積極的に取り組み、伝講等を通して情報の共有を図っていく。
	2 校内研修	A <u>B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会の充実 教科の特性を生かした授業の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ形式の検討会を行い、互いの意見を積極的に出し合うなど充実したものとなった。 ▲3年計画最終年の校内研究テーマとなったが、各教科ごとの研究が中心となり、学校としての焦点が掴みづらかった。 □全職員が共通して取り組める研究テーマを設定する。 □フリーに授業を参観し合える雰囲気醸成していく。
9 特 色 あ る 教 育 活 動	1 地域でのボランティア活動	<u>A</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的な参加 ボランティア担当者の校務分掌への位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業祭等のボランティア活動に多くの生徒が自主的・積極的に参加した。 ○ボランティア部の活動として、生徒及び教員の活動を保証した。 □継続的に積極的のボランティア活動に参加させていく。
	2 学習塾との連携	A <u>B</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や長期休業中の学習会の実施 数学の授業への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○希望制の学習会であったが、参加希望生徒が多く充実したものとなった。 ○個の到達度を踏まえながら指導にあたることができ、学習意欲の向上を図ることができた。 ▲継続するための財源の確保と、教職員との情報交換が難しい一面がある。 □継続して実施していきたい。

(6) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様な豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食回数

小学校 166回～180回

中学校 162回～177回

※学校行事等の持ち方によって学校ごとに回数が異なります。

※簡易給食の実施4回（ねずみ侵入1回、異物混入1回、ノロウイルス感染2回）

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 319円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。平成28年度は据え置きです。

④ 米飯・パン納入業者

米飯は株式会社加賀屋（名取市）、パンは有限会社ささもり菓子舗（角田市）

⑤ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・給食調理業務委託事業の委託先は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社仙台営業所で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年7月1日で、坂元中学校給食室で調理業務を実施しています。

・給食運搬業務委託事業の委託先は、社会福祉法人山元町社会福祉協議会で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日で、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、坂元中学校から坂元小学校へ、及び山下中学校から山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑥ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	臨時栄養士	給食従事員 (含む臨時職員)	計	備考
坂元中学校	1名			業務委託 5名	6名	
山下中学校		1名	1名	8名	10名	

⑦ 食物アレルギー対応

保護者からの申し出があった場合、医師の診断・指示書に基づき、保護者と学校関係職員とが面談等を実施し対応しています。

学 校	除去・代替食	弁当持参	エピペン所有者	備 考
坂元小学校	0名	0名	0名	
山下小学校	5名	0名	1名	
山下第一小学校	0名	0名	0名	
山下第二小学校	0名	0名	0名	
坂元中学校	0名	0名	1名	
山下中学校	2名	0名	0名	

・アレルギー対応児童生徒には、上記対応の外、詳細献立・食品成分表を配付しています。

・エピペンとは、食物アレルギーなどによるアナフィラキシーがあらわれた時に使用し、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤のこと。

⑧ 特色ある事業

保健福祉課と産業振興課との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年生を対象に全小学校で実施しています。

山下第一小学校	平成28年11月9日 11名	山下第二小学校	平成28年11月8日 14名
山下小学校	平成28年11月1日 31名	坂元小学校	平成28年11月2日 15名

・実施に当たっては、宮城県漁業協同組合山元支部と山元町食生活改善推進員協議会から食材の提供や調理等の指導の協力をいただいています。

⑨ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム 134・137 の検査を実施

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査を実施、平成28年度は、延べ78回検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑩ 山元町立学校給食運営審議会を開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
平成29年2月28日	中央公民館 会議室	1 学校給食調理業務委託について 2 山下中学校区学校給食共同会計について 3 平成29年度学校給食運営について	

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

生涯学習分野においては、教育方針を基に社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、社会教育施設の復旧が概ね完了したことに加え、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

① 家庭教育の活性化

協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、そして行政が一体となって家庭教育の活性化に努めました。

ア. 家庭教育事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児と保護者対象) ※ 4小学校で実施	6/8 ～ 2/10	12	親子66組 132人 (延べ 198組 396人)	協力 ・各小学校 ・家庭教育支援チーム「夢ふうせん」 ・県家庭教育支援チーム
2	子育てひろば「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者対象)	6/25 ～ 1/21	6	親子17組 36人 (延べ 101組 212人)	協力 ・家庭教育支援チーム「夢ふうせん」 ・他外部講師

イ. 幼稚園における家庭教育の推進事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	12月	1	100人	鑑賞者:園児、保護者、なかよし会会員

ウ. 家庭教育支援者の養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーター・リーダーネットワーク研修会	7/6 ・ 2/7	2	(延べ) 10人	主催: 県教育委員会
2	子育てサポーターリーダー養成講座	9/6 ～ 12/1	4	(延べ) 17人	主催: 県教育委員会

3	子育てサポーター養成講座	5/31 ～ 7/5	4	(延べ) 29人	主催：県教育委員会
4	宮城県家庭教育支援チーム 員研修会	5/10 ・ 8/31	2	(延べ) 5人	主催：県教育委員会
5	家庭教育支援チーム 「夢ふうせん」 スタッフ研修会	11/28	1	14人	多賀城市子育てサ ポートセンター 「すくっぴー」、多 賀城市立図書館の 取組を視察

エ. 子育てサークル等に対する活動支援

親子共同保育団体及び家庭教育支援団体に対し、8月に新設された「こどもセンター」と協力して団体の運営支援を行いました。

No.	団体名	内容	活動日
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日
2	家庭教育支援チーム「夢ふうせん」	家庭教育支援	毎週火・水・木曜日

オ. 家庭教育啓発情報紙の発行

家庭教育啓発情報紙を発行し、子育てに関する情報等の発信に努めました。

No.	情報紙名	回数	発行部数
1	子育て通信「夢ふうせん」	年6回	各回600部

内容：未就学児を持つ保護者向けに、「おすすめ絵本」「簡単レシピ」など子育てに関する情報を掲載し、町内保育所、幼稚園等に配している。

② 青少年学習活動の支援

協働教育の一環として、青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、活動場所の提供や指導者の確保、情報の収集・提供等を軸とした学習環境の充実に努めました。

また、各種イベント、ボランティア、まちづくり等への積極的な関与を促し、青少年関係団体の育成や活動への支援、また、活動・発表の場の提供を行いました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	インリーダー講習会 (小学5年生対象)	3/6	1	5人	会場：中央公民館・勤 労青少年ホーム 協力：山元ボランティ アサークル虹
2	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小学6～中学3年生対象)	3/25 ～26	1	11人	会場：中央公民館・勤 労青少年ホーム
3	学校開放 「やまもと楽校」	11/23	1	21人	会場：坂元中学校 協力：町内学校教職員

					12人
4	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	12/17 ～ 2/26	3	(延べ) 160人	会場：勤労青少年ホームロビー

イ. 主催事業

- ・成人式 平成29年1月8日(日) 参加者数(新成人) 109人
- ・実行委員会 実行委員12人 委員会の開催5回
新成人有志が実行委員会を組織し、自らアトラクションの企画・運営を行い、記念となる成人式を作り上げました。

ウ. 補助事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/6 ～ 3/10	32	21人 (延べ 530人)	会場：坂元小学校・坂元公民館 スタッフ数14人 (延べ222人)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・山二小 対象)	5/9 ～ 3/6	31	22人 (延べ 485人)	会場：山下第一小学校 スタッフ数11人 (延べ185人)

③ 地域と世代間交流・学習活動と発表の場の提供

子どもから高齢者まで、潤いと生きがいのある生活を送ることができるよう、健康・教養・趣味等の学習ニーズに対応できる学習・実践・発表機会の場の提供を行ない、地域間や世代間交流の推進と支援に努めました。

ア. 主催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子交流体験事業	6月～	17	300人	会場： ・中央公民館、勤労青少年ホーム ・こどもセンター ・つばめの杜中央公園 ・山下駅前

イ. 共催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子どもも大人もみんな で遊び隊	5/3・4 ・ 8/6・7	2	(延べ) 1,400人	会場：中央公民館 主催：子どもも大人もみんな で遊び隊

④ コミュニティ振興関係事業

コミュニティ関係団体及び事業参加者に対し補助金・負担金の交付を行うなど、関係団体の活動を支援し、活性化に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額 (円)
1	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000

イ. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	公益財団法人宮城県国際化協会	10,109

ウ. 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	金額 (円)	備考
1	第20回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	20,000	@5,000円×4人 会場：亘理町

⑤ 学校教育支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、指導者や安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

No.	学校名	学年	時期	内容	備考
1	山下小	1・2	4/14	交通安全教室安全見守り	ボランティア5人 生涯学習課2人
		3	4/18	校外学習見守り	ボランティア4人 生涯学習課2人
		4～6	5月～	鼓笛金管バンド指導	指導者1人
		3	5/24	校外学習	ボランティア1人 外部講師5人 生涯学習課2人
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		2	6/9	校外学習	ボランティア3人 生涯学習課2人
		4	8月～	打楽器演奏指導	ボランティア1人
		5	10/17	総合的な学習の時間 (山元町の農業・水産業)	講師2人
		1	10/19	校外学習(少年の森)	ボランティア4人 生涯学習課1人
		全	10/21	縦割り山登り安全見守り	ボランティア11人 生涯学習課3人
		全	12/6	持久走大会安全見守り	ボランティア6人 生涯学習課2人
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア5人 (年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア

2	山一小	全	10月	国際理解集会（講師派遣）	講師1団体（6人）
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア5人 （年20回）
		全	通年	見守り活動	ボランティア
3	山二小	1・2	4/14	交通安全教室安全見守り	ボランティア5人 生涯学習課2人
		3	4/18	校外学習見守り	ボランティア4人 生涯学習課2人
		2	6/9	校外学習	ボランティア3人 生涯学習課2人
		2	6/23	民話語り部	講師1人 ボランティア1人 生涯学習課3人
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		全	10/18	見守り隊結成式	ボランティア46人
		全	10月～	見守り活動	ボランティア46人
4	坂元小	3	6/2	町内巡り（公民館見学）	坂元公民館職員2人
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		3	6月～	りんごの学習指導	指導者1人（年5回）
		5	7月～	いちごの学習指導	指導者1人（年4回）
		2	11月～	地域方々との交流 （2回実施）	講師2人
		1～2	2月	国際理解交流活動	講師1団体（6人）
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア9人 （年20回）
		全	通年	見守り活動	ボランティア40人
5	山下中	2	5/10 ～12	職場体験活動 （受入事業所調整等）	協働教育コーディネーター
		全	5月	情報モラル授業（講師派遣）	講師1人
6	坂元中	2	9/12 ～14	職場体験活動 （受入事業所調整等）	協働教育コーディネーター
		部活	7月～	吹奏楽指導	講師1人

⑥ 社会教育関係団体の育成・支援

社会教育関係団体の育成と社会教育の推進、及び公民館の円滑な運営のため、各種協議会に参加し情報交換等を行いました。また、各団体への自主的な活動と運営

に向けた支援を行い、社会教育の振興に努めました。

ア. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	宮城県社会教育委員連絡協議会	10,000
2	仙台管内子ども会育成連絡協議会	10,000

イ. 公民館関係団体に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	亘理地区防災安全協会	4,000
2	宮城県公民館連絡協議会	5,100
3	全国公民館振興市町村長連盟	5,000

ウ. 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	なかよし会	13,000	
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	
5	山元町坂元地区高校生親の会	12,000	
6	亘理地区少年補導員協会	68,000	
7	山元町文化協会	266,000	
8	山元町老人クラブ連合会	309,000	
9	各単位老人クラブ (5団体)	242,500	@48,500

エ. 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	ジュニア・リーダー中級研修会	3,388	参加者2人
2	ジュニア・リーダー上級研修会	3,500	参加者1人

オ. 社会教育関係団体の実施事業に対する補助金

No.	事業名称	金額 (円)	備考
1	第20回 みやぎ県民文化祭	50,000	会場：名取市文化会館

標記の文化祭は、平成28年10月22日に名取市文化会館において開催されました。当町文化協会会員も、実行委員として企画・運営に参画（実行委員会の開催：7回）し、当日はステージ発表に出演、また、展示発表に出展を行いました。

⑧社会教育・社会体育施設の修繕工事等

平成28年度は、施設の経年劣化により不具合が発生していた中央公民館吹抜け及びビロビーの照明器具等の改修工事を行いました。また、深山山麓少年の森施設の老朽化に伴う危険施設の撤去、施設の修繕を行いました。

その他、施設の管理運営上、利用者が安全に施設を利用できるよう小破部分の維持管理に係る修繕等を行い、環境の整備に努めました。

ア. 施設の修繕工事等

No.	工事名等	金額 (円)
1	中央公民館照明器具交換工事	198,720
2	〃 吹抜電球交換工事	174,960
3	深山山麓少年の森木橋撤去工事	324,000
4	〃 研修室床修繕工事	154,980

(2) 生涯スポーツの推進

震災の影響により、体育施設のうち町民運動場は応急仮設住宅の用地として緊急的に使用されていることから、震災以前のような社会体育の事業実施や関係団体への活動場所の提供、また、広域的な交流を目的とした大会等の実施や、各種大会等の開催については難しい状況となっています。

① スポーツ活動の推進

町民の健康増進とスポーツの普及発展を図るため、スポーツ大会等の開催や、他機関が開催する大会へ参加しました。また、スポーツ推進員13名を委嘱し、地域住民等へ広くスポーツ活動の促進を図るとともに、トレーニング器具の取扱い講習会やニュースポーツ等の体験会を開催するなどし、スポーツの普及に努めました。

また、スポーツ人口の拡大のため、体育協会やスポーツ少年団と連携し、事業の実施や大会等への参加、情報提供などを行い生涯スポーツの基盤づくりに努めました。

ア. 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	スポーツ少年団 入団式及び体力テスト	6/11	1	81人	会場：山下小学校校庭 及び体育館
2	トレーニング器具 取扱い講習会	5/27 ～ 2/24	7	13人	会場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進 委員
3	未来への道 1,000km 縦断リレー	7/31	1	5人	タスキ中継所：山一 小、役場、体育文化 センター
4	宮城ヘルシー2016 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	8/6	1	38人 (※)	会場：県総合運動公園 主催：県・県教育委員 会ほか

5	スポーツ少年団 第33回ミニオリンピック	10/29	1	中止	会場：坂元中学校校庭
6	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	11/21	1	84人	会場：歴史民俗資料館 前芝生
7	10,000人寒稽古 (剣道、柔道、空手道)	1/14	1	45人	会場：体育文化センター

(※)山元町からの出場種目毎の出場人数は、グラウンドゴルフ10人、ペタンク6人、家庭バレーボール22人

② スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

- ・全国大会出場（個人）10,000円
補助金及び賞賜金の交付

No.	団体名称等	金額（円）	備考
1	山元町体育協会	1,246,000	13団体が加盟
2	各行政区 (地域スポーツ・レクリエーション 事業補助金)	30,000	@10,000 ×3行政区
3	全国大会出場者 (全国大会出場等賞賜金)	230,000	個人：22人

(3) 魅力ある地域文化の醸成

より豊かな地域社会を醸成するため、伝統文化の保存・継承、新しい地域文化の創造・発信、町民文化活動の育成への支援、伝統芸能保存団体などの育成、町民個人と文化芸能との出会いや文化活動に関わる人同士の交流の促進などに取り組んできました。

また、町内には、縄文時代から近世までの多くの埋蔵文化財（以下、遺跡）が残されており、これらは山元町の歴史と文化の原点ともいえる貴重な文化財といえます。

近年、震災復興に関わる開発行為や土砂採取工事に伴い、町内各所で継続的に遺跡の発掘調査が実施されております。なかでも、新市街地の造成に伴う合戦原遺跡の発掘調査においては、横穴墓から人や動物などの多様なモチーフが描かれた線刻画が発見されており、この線刻画については、国内においても非常に貴重なものであることから、現在、復元作業を行っており、今後、歴史民俗資料館において展示する計画としております。

こうした開発等に伴う遺跡の調査については、法の規定に基づき、適正な保存・記録を行うとともに、発掘現場の現地公開等を行い文化財保護思想の普及啓発に努めました。

① 芸術文化の振興

関係機関並びに関係団体と連携を図りながら各種事業を実施し、芸術文化に身近に親しむ機会を提供しました。

ア. 芸術文化活動事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第3回展示まつり	6/11 ～12	1	250人	主催:山元町文化協会
2	宮城県巡回小劇場 「音楽公演:三輪 郁 ヴァイオリン、チェロ、ピアノ コンサート」(山二小)	9/9	1	125人	主催:県教育委員会 共催:町教育委員会
3	第40回町民文化祭	11/5 ～6	1	2,300人	主催:山元町文化協会
4	第20回文化推進事業 「ふるさとの伝承文化に学ぶ」	11/5	1	100人	主催:山元町文化協会

② 文化財の保存・保護

ア. 文化財保護委員会

文化財に関する諮問機関として文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

・開催回数 3回

イ. 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

合戦原遺跡において発見された線刻画については、有識者（文化庁、奈良文化財研究所、県、東北歴史博物館等）により重ねられた検討により、「現地保存は困難である」旨が確認されたことから、移設保存（復元）の方法についての指導・支援を受け、現地より取り出し作業を行い、復元に向けた作業が行われています（翌年度への繰り越し事業）。

また、東日本大震災に伴う防災集団移転等の復興事業や被災した個人の住宅再建等に伴い、現地での保存が困難だと考えられる埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	北頭無遺跡 ほか4遺跡	花釜区 ほか	県道相馬互理 線改良工事	確認調査	10月～	

エ. 埋蔵文化財の保護（その他の開発に係る事業）

民間事業者等による開発に伴い、その発掘・調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査期間	備考（調査面積等）
1	日向館跡	鷲足区	土砂採取	4月～6月	現地発掘調査 3,820㎡
2	川内遺跡	中山区	土砂採取	4月～3月	現地発掘調査 19,000㎡
3	鷲足館跡	鷲足区	土砂採取	1月～3月	現地発掘調査 1,220㎡

4	北経塚遺跡	小平区	店舗開発	調査報告書の執筆・刊行
5	谷原遺跡	山寺区	町道改良	調査報告書の執筆・刊行

オ. 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町の史跡である中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、枝払い等を実施し、環境整備に努めました。

③ 伝統文化の保存と展示・活用と活動場所の環境整備

歴史民俗資料館において、町内に残る貴重な文化遺産（歴史・美術・民俗的な資料や自然環境に関する資料）の収集保存・整理を行い、収蔵品は常設展により展示することに併せ、『収蔵資料展』、企画展『発掘された山元町ー常磐道関連遺跡 発掘調査成果展 3ー』を開催し、広く歴史文化の理解と振興に努めました。

併せて、関係する資料館等との情報共有を図るため、協議会等に参画し、情報交換や運営を行いました。

ア. 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額（円）
1	宮城県博物館等連絡協議会	9,500
2	宮城県南資料館等連絡協議会	5,000
3	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

④ 無形民俗文化財保存継承団体の活動支援

ア. 活動の活性化を図るため、発表機会に関する情報提供等を行い、伝統芸能を広く発表することに努めました。

- ・仙台青葉まつり2016前夜祭（仙台市：5月14日）
：坂元おけさ保存会
- ・第40回山元町町民文化祭（中央公民館：11月6日）
：坂元神楽保存会
：當護稻荷大神楽保存会
：坂元おけさ保存会

イ. 団体への補助金の交付

No.	団体名称	金額（円）
1	坂元神楽保存会	10,000
2	坂元おけさ保存会	10,000

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

震災前には広く町民に活用されていた町民グラウンドやテニスコートは、仮設住宅・仮設商工団地・震災関連の物資倉庫用地として使用されていることから、施設の

運用には未だ多くの制約が残っております。

このような状況の中、貸し出しを行っている施設については、町民の生涯学習活動・スポーツ活動の拠点として震災前の賑わいを取り戻しつつあります。

また、牛橋公園内の各施設についても、利用者の利便性を確保するために利用調整等を行い、社会体育・スポーツ振興に努めました。

① 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	中央公民館	40,078	53,723
2	勤労青少年ホーム	20,408	20,107
3	坂元公民館	13,141	11,667
4	深山山麓少年の森	21,863	31,629
5	歴史民俗資料館	1,214	2,457
6	ふるさと伝承館	3,781	4,276

② 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	体育文化センター(武道館を含む)	16,327	14,182
2	山寺深山グラウンド	3,513	2,913
3	真庭グラウンド	1,250	1,300

③ 牛橋公園施設の利用状況

No.	施設名	利用者数(人)	前年度利用者数(人)
1	野球場	3,936	2,286
2	多目的広場	2,992	1,500
3	管理棟	1,097	150

利用状況については、震災後には各施設を避難所や支援物資一時保管庫等として使用していたことから、一時的に利用人数が激減しました。

しかし、震災から6年余を経過する中で、町民の学習意欲・活動意欲の高まり等も相まって、利用人数は震災前の水準に戻り、また、その水準を上回りつつあります。

中でも、深山山麓少年の森では、深山山頂から復興が進む街並みが一望できることや、民間NPO団体が山頂に設置した「鎮魂の鐘」等を目的とした登山に伴う施設利用者等により震災前の水準に戻り、また、勤労青少年ホームではイベント開催により利用人数の増加につながっていると考えられます。

牛橋公園は、町内のスポーツ愛好団体の利用はもとより、町外者による利用も多く、山元町を訪れる交流人口の増加にも寄与していると考えられます。

(5) 社会教育施設等の整備計画

防災拠点・復興拠点支援施設である（仮称）坂元地区地域交流センター新築工事、及び旧中浜小学校の整備事業基本計画策定業務を行いました。

① 防災拠点・復興拠点支援施設

●山元町防災拠点・坂元地域交流センター新築工事

業務名：平成28年度（債務）（仮称）坂元地区地域交流センター新築工事

災害から町民を守るための避難施設の確保、及び地域防災力の向上に向けた、交流、活動、人材育成の場を提供する機能を備えた施設として山元町防災拠点・坂元地域交流センターの新築工事を実施しました。

●施設概要

【用 途】 集会所（防災拠点）

【敷地面積】 5,644. 11 m²

【構造・規模】 鉄筋コンクリート造 2階建 延床面積 2,228.39 m²

【附属棟】 自転車置場 23.01 m² (20台)

【主要諸室】 イベントスペース・会議室・防災研修室・支所・調理室・和室
・内外部備蓄庫等

○施工管理 (株)日立建設設計 北日本支店

期 間 平成28年6月30日～平成29年5月31日

業務委託費 22,140,000円(当初契約額)

前 払 (40%) 8,856,000円 (H28年度支出分)

○施 工 大豊建設(株) 東北支店

工 期 平成28年6月17日～平成29年5月31日

工 事 費 985,824,000円(当初契約額)

H28年度支出額

前 払 (50%) 492,912,000円

490,562,000円 ①

2,350,000円 8款6項3目支出(災害用トイレ分)

中間払 (20%) 197,164,000円

196,224,000円 ②

940,000円 8款6項3目支出(災害用トイレ分)

①+② 686,786,000円(平成28年度支出分)

② 震災遺構

○旧中浜小学校について

項 目	内 容
所 在 地	山元町坂元字久根 22 番地の 2
竣工年月日	平成元年 3 月 (1989 年)
構造種別	鉄筋コンクリート造 (昭和 56 年に施工された新耐震設計法により設計された建物)
階 数	地上 2 階建
延床面積	2,310. 12 m ²
敷地面積	17,469. 00 m ²

被災	2005年8月16日 宮城県沖地震 (5弱)
	2011年3月11日 東北地方太平洋沖地震 (6弱)
	2011年4月7日 宮城県沖地震 (5弱)

○業務名：旧中浜小学校震災遺構整備事業基本計画策定業務

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構として」保存・活用を図るため基本計画を策定した。

区分	業務内容	受託者	業務期間
保存計画	建築及び保安基準等を満たすための 図面作成等ハード面の条件整理	(株)国際開発コ ンサルタンツ	H28.6.30 ～H29.2.28
活用計画	運用及び活用計画等を策定するた めの支援等ソフト面の条件整理	国立学校法人 東北大学	H28.7.1 ～H29.1.31

- ・提言書に基づいた保存・活用方法について調査、関係機関協議開始
- ・現地調査（平成26年度時点からの進行状況（クラック等）調査）
- ・関係機関協議開始（法令、設備等に関する協議）
- ・ワークショップ開催【3回】（基本計画策定の為の参考意見集約）

実施日	参加者	内容
9月3日	31名	①活用方法と運営方法 ②遺構としての保存の形 ③現実的な町としての計画
9月17日	19名	①前回のWSでの質問等について ②遺構としての保存の形 ③前回のWSでの意見の集約
10月1日	18名	①前回のWSの振り返り ②ハード案（頂いた意見から）について ③震災の記憶と経験を伝承することについて ④計画案の具体的可能性、運用上の課題、継続的な議論等について（全体議論）

- ・住民意見交換会 H28年12月3日
- ・住民報告会 H29年3月25日

IV 点検評価に対する学識経験者の意見

◇ はじめに

東日本大震災から7年目を迎え、つばめの杜地区に山下第二小学校が完成し、常磐線も再開通するなど「山元町震災復興計画」の下に本町の復興は順調に進行し、各学校における教育活動も着実に進んでいる。しかし、阪神・淡路大震災の被災地域において、児童生徒の生徒指導上の問題など長期にわたって様々な影響が指摘されている。また、近年は本県において中学生の深刻な「いじめ問題」が連続して発生している。以上のことから本町においても、常に課題意識を持って日々の教育活動に取り組んでいく必要があると考えている。今回、初めて意見を述べる機会をいただいたので、現在の評価形式となった平成25年度からの状況を踏まえながら、平成28年度の取り組みと成果を中心にしていきたい。

1 教育委員会の活動について

教育委員会制度の改正に伴い、教育長のリーダーシップの下に課題に迅速に対応できるようになった。また、山元町総合教育会議等において町長と教育委員会が連携して教育行政の重要課題について協議・調整を行って執行することから、より大きな力で教育活動を推進することができるようになってきている。

- (1) 教育委員会の定例会の中で、「教育振興基本計画」について慎重な検討・協議がなされ平成29年3月に「山元町教育振興基本計画」が策定された。このことは教育活動の計画的・継続的な取り組みのためには極めて有益なことである。この計画の下に町の掲げる「子育てするなら山元町」「ライフステージに応じた切れ目ない支援」がしっかりと実現していくことを期待している。
- (2) 「山元町教育振興基本計画」は、これまでも教育委員会の指導の下に各学校が取り組んできた事項を「重点的事項」として整理・再編成したものであり、実践的な取り組みを計画的・継続的に推進するためには有効であると考えられる。
- (3) 町総合教育会議が開催され、教育振興基本計画策定に向けての話し合いがなされ、その中で「いじめや不登校問題」について協議されている。本町においては生徒指導上の重大な問題は発生していないが、行政と教育行政に携わる方々が常に課題意識をもっていることは重要である。町総合教育会議の中では、学力向上や児童生徒数の減少に対する対応策を念頭に置いて、これからの地域社会を形成しリードしていく人材を育成する協議を進めてほしい。
- (4) 学力向上に向けて「学力日本一の村」の秋田県東成瀬村の教育長を講師として招聘して教育講演会を開催し、子どもたちが主体となって学ぶ環境づくりについて教職員、保護者が研修したことは素晴らしい取り組みである。先進事例に学ぶことは重要である。今後は研修会の開催で終わらずに実践に生かしていくことを期待している。

2 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建

山下第二小学校が、工程どおりに完成し平成28年8月25日に落成式を挙げてきたことは施工会社

と毎週定例会議等を開き、進捗状況を把握しながら慎重に進めていった成果である。校舎はこれまでの学校建築の成果を取り入れたものであり、多様な形態の授業が行えるよう2学年毎にクラスルームとラーニングスペースを田の字型に組み合わせて配置されるなど工夫されている。

また、冬期の暖房に集熱システムを備えたことは、暖房経費の削減や環境対策として有効であり、評価したい。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

いじめ防止に関しては、平成25年に「いじめ防止対策推進法」が制定され、学校では「いじめ防止基本方針」が定められ、「いじめ」に対しての早期発見や相談体制、いじめ撲滅のための対策がとられてきている。「いじめ」はあってはならないが、どこにでもおこり得ることであり、対応によっては深刻な事案となってしまう。本町では平成28年度において5件の認知があり、学校と保護者が連携して指導にあたり、5件全てが解消したことは誠に喜ばしいことであり高く評価したい。今後とも迅速・丁寧な対応により、全ての児童生徒が「いじめのない学校」で安心して学校生活をおくっていくことを願っている。

(3) 小学校および中学校における教育活動等の評価について

各学校における教育活動等の評価については、平成25年度から A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である という方式で自己評価されている。また、評価のみならず「主な具体的対策や方策」「成果と課題」について克明に記載され、厳しい視点から高い目標に向かって、真摯に自己点検・自己評価に取り組んでいることが窺える。教育に携わる者の一人として、また一町民として各学校の取組みに敬意を表したい。

【小学校】

各小学校において、自己評価は年々向上して平成27年度からはC評価はなくなっていることは高く評価したい。紙面の都合により以下の3点についてコメントする。

①「基礎学力の定着」・「活用する力の伸長」

過去にC評価がみられた「基礎学力の定着」や「活用する力の伸長」が改善され、「家庭学習の習慣化」が多くの子どもたちに定着していることは高く評価したいが、残念ながら「家庭学習の習慣化」に至っていない子どもたちも一定数いるようなので、更なる指導をお願いしたい。「家庭学習の習慣化」は中学校、高校、さらに大学等においても極めて重要である。

②「いじめ防止対策」・「不登校対策」

適切な対応により大きな問題とはなっていないが、いじめや不登校などはどこの学校でも起こりうることである。初期対応や保護者との連携などの対応策やケース会議を開催して情報を共有することなどが適切に行われている。またスクールカウンセラーの活用は学校現場で定着しているが、スクールソーシャルワーカーについては、その効果的な活用について不十分であるとの報告がある。先進事例に学ぶとともに各学校間で情報を共有しながら研究していく必要がある。今後の取り組みに期待したい。

③「地域防災の視点に立つ危機管理体制」「大震災の経験を生かした防災教育」

東日本大震災以来7年が経過し、社会全般において危機感や警戒感が薄まる傾向にある。地震や

津波だけでなく豪雨や土砂災害、大規模落雷、突風や竜巻など様々な災害が頻発している中で、幸いにも大震災以降、本町は大きな災害は発生していない。「想定外は想定内」を基本姿勢として備えていただきたい。被災地の学校として他の地域のリーダーとなれるような取組みを期待している。

【中学校】

C評価がいくつかあり、複数年にわたって課題が解決されていない事項がある。しかし、これらは厳しい視点に立っての真摯な自己評価の結果であり、次のステップに進むには避けては通れない。

安易に自己評価の基準を緩めることなく果敢に日々の教育活動に取り組まれることを期待している。各事項についてのコメントは小学校と重複する部分が多いので省略する。

(4) 学校給食の概要について

成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のためにしっかりとした食事を提供すると共に、食物アレルギー対応に保護者と話し合いながら進めていることは高く評価できる。学校給食は、単に昼食を提供するだけではなく、大切な「食育」の場である。関係各方面との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年で実施していることは良い取組みである。また、食育については栄養教諭が山下中学校に配置されているという強みを活かして学校教育計画の中にしっかりと位置づけると共に、栄養士による学校訪問や担任による「食に関する指導」にも活かしていただきたい。

3 生涯学習の推進について

(1) 生涯学習の充実

生涯学習の各事業に関しては、各事業が整備され参加者も多く、成果を上げている。今後とも先進事例を参考にするなどともに地域住民や関係者のニーズを把握しながら進めていただきたい。

①家庭教育支援

本町においても核家族化は進行しているし、親や祖父母の世代とは子育ての方法等の違いもみられるので、家庭教育事業や推進事業を行うことは、若い世代の子育ての助けになっている。また、子育てサポーターの養成にも力を入れていることから、継続して地域で支援を続けることができる体制ができている。

②地域活動支援

子供の放課後の居場所づくりは、地域の子どもの数の減少等により一緒に遊ぶ機会が減った子供たちにとって、有意義な活動になっている。また、そのお世話をしている方にとっても生きがいになっていて、有効な協働教育の一つとなっている。子供の数が少ない現状から、ジュニアリーダーのなり手は少ないと思われるが、児童生徒の健全育成やリーダー育成のために努力願いたい。

③学校教育支援

学校のニーズに適切に対応しながら、外部講師や学習支援ボランティアを派遣していることは高く評価できる。現代の学校教育は学校が単独で行う教育から、地域や保護者の支援を得ながら、多くの人の力によって進める教育に移行している。地域や保護者と共に歩む学校・開かれた学校として、教育活動に取り組んでいく必要がある。また、外部講師やボランティアの人材開拓にも力を入れていただきたい。

(2) 生涯スポーツの推進

スポーツ推進員を13名委嘱してスポーツ活動の促進を図るとともに各種事業を実施している。また、各団体への補助や全国大会出場者への賞賜金の交付等を実施している。

(3) 魅力ある地域文化の醸成

① 地域の中で継承されてきた伝統文化は、後継者不足や担い手の高齢化などにより衰退していく可能性がある。財政的な支援や発表の場の提供、広報紙で取り上げるなど積極的な支援をお願いしたい。また、後継者の育成については組織的な支援が必要であると考えている。

② 埋蔵文化財の保護

合戦原遺跡から出土した線刻画については取り出し作業と復元に向けた取組が行われているとのことであるが、貴重な文化財であるので早期に有効な保存・展示について取組んでいただきたい。

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

牛橋公園内の各施設や町中の体育施設が利用できるようになったことは、町内だけではなく、町外からスポーツ愛好者が来町し、交流人口が拡大することとなる。また、深山山麓少年の森や勤労青少年ホームの利用人数も増加しているとのことであるが、たいへん喜ばしいことである。

また、亘理町の割山峠から深山を経由して鹿狼山までの登山道はハイキング愛好家にとって格好のコースとなり、多くのハイカーが訪れ、旅行業者によるツアーも行われている。コースの情報をホームページに掲載することや周辺のコースやトイレなどの施設を整備すれば更なる交流人口の増加を期待できる。

(5) 山元町防災拠点・坂元地域交流センター

防災機能を備えた交流、活動、人材育成の施設が完成することは地域にとって極めて有用なことであるが、使いやすい施設となり利用者が増加するような施設運営を期待する。

○ 終わりに

震災からの復興は着実に進行している。特に学校教育においては山下第二小学校の再建は大きな前進である。また、児童生徒の心のケアや人間的な成長を図るための取組みや学力向上に対する取組み等が教育委員会や各学校の校長先生をはじめとする先生方の並々ならぬ努力で大きく成果を上げている。社会教育においても、各事業がしっかりと実施され、更に山元町防災拠点・坂元地域交流センターが完成する予定であり、施設面では震災前の状況を上回るとみられる。

しかしながら、児童生徒数の減少が続く中での教育活動の活性化や学力向上など、今後とも継続して取組まなければならない課題が多いのも周知のとおりである。

これまでの関係各位のご努力とご苦勞に深く敬意を表するとともに、将来を見据えての事業を拝見し、山元町の子供たちの未来は明るいとの確信を強く持った。「子育てするなら山元町」というスローガンの下に山元町の教育が更に発展することを期待する。

尚綱学院大学 学長補佐 (高大接続担当)

前仙台市立仙台高等学校長 渡邊 典男

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。